

2015年度 工学部情報画像学科 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
T1U001001	情報画像セミナー	2.0	1年前期水曜 2限	大澤 範高 ^他	情報 3
T1U002001	情報画像概論	2.0	1年後期水曜 4限	黒岩 眞吾	情報 3
T1U002002	情報画像概論	2.0	1年後期水曜 5限	黒岩 眞吾	情報 4
T1U004001	情報画像リテラシー	2.0	1年後期火曜 2限	今泉 貴史	情報 5
T1U004002	情報画像リテラシー	2.0	1年後期火曜 4限	今泉 貴史	情報 6
T1U005001	情報数学 I	2.0	2年前期金曜 4限	岸本 渡	情報 7
T1U006001	計算機システム入門	2.0	2年前期木曜 1限	難波 一輝	情報 8
T1U007001	プログラムの設計と実現 I	2.0	2年前期木曜 2限	堀内 靖雄	情報 9
T1U008001	フーリエ変換と画像	2.0	2年前期火曜 2限	堀内 隆彦	情報 10
T1U008002	フーリエ変換と画像	2.0	2年前期火曜 3限	堀内 隆彦	情報 11
T1U009001	回路理論 I	2.0	2年前期水曜 1限	関屋 大雄	情報 12
T1U010001	プログラム演習	2.0	2年前期金曜 3限	森 康久仁	情報 13
T1U010002	プログラム演習	2.0	2年前期金曜 2限	森 康久仁	情報 14
T1U011001	工学倫理 (情報画像)	2.0	2年前期月曜 5限	(河村 尚登)	情報 15
T1U012001	電磁波と光	2.0	2年前期月曜 4限	久世 宏明 ^他	情報 16
T1U014001	情報画像実験 I	2.0	2年後期金曜 3,4,5限	各教員	情報 17
T1U015001	確率と統計	2.0	2年後期火曜 2限	松葉 育雄	情報 17
T1U016001	情報数学 II	2.0	2年後期火曜 4限	岸本 渡	情報 18
T1U017001	計算機ハードウェア	2.0	2年後期水曜 1限	(相京 隆)	情報 19
T1U018001	算法の設計と解析	2.0	2年後期月曜 2限	井宮 淳	情報 20
T1U019001	プログラムの設計と実現 II	2.0	2年後期火曜 3限	堀内 靖雄	情報 21
T1U020001	色彩と画像	2.0	2年後期月曜 4限	溝上 陽子	情報 22
T1U021001	画像解析システム論	2.0	2年後期水曜 4限	眞鍋 佳嗣	情報 23
T1U022001	回路理論 II	2.0	2年後期金曜 2限	関屋 大雄	情報 24
T1U023001	多変量解析	2.0	2年後期水曜 2限	大澤 範高	情報 25
T1U024001	画像有機化学	2.0	2年前期月曜 2限	宮川 信一	情報 26
T1U025001	情報画像実験 II	2.0	3年前期水曜 3,4,5限	各教員	情報 27
T1U026001	情報画像基礎英語	2.0	3年前期火曜 4限	(太田 真智子)	情報 28
T1U026002	情報画像基礎英語	2.0	3年前期火曜 5限	(太田 真智子)	情報 29
T1U027001	情報理論 (情報画像)	2.0	3年前期月曜 3限	須鎗 弘樹	情報 30
T1U028001	数値計算の理論と実際	2.0	3年前期集中 3年前期土曜 4,5限	(河村 哲也)	情報 31
T1U029001	計算機アーキテクチャ	2.0	3年前期金曜 3限	北神 正人	情報 32
T1U030001	情報通信ネットワーク	2.0	3年前期火曜 1限	関屋 大雄	情報 32
T1U031001	プログラム言語の構造	2.0	3年前期木曜 3限	今泉 貴史	情報 34
T1U032001	パターン認識基礎	2.0	3年前期金曜 2限	津村 徳道	情報 34
T1U033001	ヒューマンインタフェース	2.0	3年前期火曜 2限	黒岩 眞吾	情報 35
T1U034001	コンピュータグラフィックス	2.0	3年前期木曜 4限	津村 徳道	情報 36
T1U035001	デジタル信号処理	2.0	3年前期月曜 2限	川本 一彦	情報 37
T1U036001	情報知的所有権セミナー	2.0	3年前期水曜 1,2限隔週 1,3	(千旦 和也)	情報 38

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
T1U037001	インターンシップ	2.0	3年通期集中	松葉 育雄	情報 39
T1U038001	ソフトウェア設計論	2.0	3年前期火曜 3限	大澤 範高	情報 39
T1U044001	写真創作実習	2.0	3年前期金曜 4限	(鈴木 建男)	情報 40
T1U045001	情報画像実験 III	2.0	3年後期木曜 3,4,5限	各教員	情報 41
T1U046001	視覚情報処理	2.0	3年後期火曜 2限	矢口 博久	情報 42
T1U047001	符号理論	2.0	3年後期月曜 3限	須鎗 弘樹	情報 43
T1U048001	データベース	2.0	3年後期月曜 5限	梶原 康司	情報 44
T1U049001	生体情報システム論	2.0	3年後期月曜 4限	松葉 育雄	情報 44
T1U050001	デジタル画像処理	2.0	3年後期水曜 4限	堀内 隆彦	情報 45
T1U052001	リモートセンシング工学	2.0	3年後期金曜 2限	久世 宏明他	情報 46
T1U053001	オペレーティングシステム	2.0	3年後期金曜 3限	北神 正人	情報 46
T1U054001	知識工学	2.0	3年後期水曜 3限	井宮 淳	情報 47
T1U059001	心理物理学	2.0	2年後期水曜 3限	青木 直和	情報 48
T1U060001	工業システム概論	2.0	4年前期月曜 4限	(浅野 一哉)	情報 48
T1U061001	画像技術史	2.0	4年前期木曜 4,5限	(桑山 哲郎)	情報 49
T1U062001	広報媒体論	2.0	4年前期金曜 3限	(和田 仁)	情報 50
T1U064001	メディアアート	2.0	4年前期集中	(佐藤 慈)	情報 51
T1U065001	デジタル映像システム	2.0	4年後期集中	(黒沢 俊晴)	情報 52
T1U066001	卒業研究	8.0	4年通期集中	各教員	情報 52
T1U068001	画像電子機器工学	2.0	4年後期集中	(仲谷 文雄)	情報 53
T1U069001	情報画像産業汎論	2.0	3年後期金曜 5限	松葉 育雄他	情報 53
T1U070001	国際実習	2.0	3,4年通期集中	各教員	情報 54
T1Y016001	造形演習	2.0	1,2年前期火曜 5限	植田 憲	情報 54
T1Y016002	造形演習	2.0	1,2年前期火曜 5限	田内 隆利	情報 55
T1Y016003	造形演習	2.0	1,2年前期火曜 5限	林 孝一他	情報 56
T1Y016004	造形演習	2.0	1,2年前期火曜 5限	柳澤 要他	情報 57
T1Y016005	造形演習	2.0	1,2年前期火曜 5限	UEDA EDILSON SHINDI	情報 57
T1Z053001	情報技術と社会	2.0	後期水曜 2限	全 へい東他	情報 59
T1Z054001	工業技術概論	2.0	前期月曜 5限	魯 云	情報 60
T1Z055001	居住のデザインと生活技術	2.0	後期金曜 4限	魯 云	情報 61

T1U001001

授業科目名：情報画像セミナー
 科目英訳名：Introduction to Information and Image sciences
 担当教員：大澤 範高, 北神 正人
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：1 年前期水曜 2 限
 授業コード：T1U001001
 講義室：工 2 号棟 102 教室

科目区分

2015 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1KI:情報画像学科 (先進科学) , T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 実習・実技

[受講対象] 情報画像学科 1 年生および編入生

[授業概要] 新入生を対象に、少人数の学生諸君と教官が人間的にふれあいながら、大学での勉学、研究、学生生活、進路等についてのオリエンテーションを行います。

[目的・目標] このセミナーは、新入生の皆さんが、情報画像学科の勉学の全体を把握し、将来の目標を考える動機付けとなることを目的としています。

[授業計画・授業内容] 一教員あたり 5 名程度の少人数のグループを編成して、自由な雰囲気交流し、情報を交換します。具体的内容は、各担当教員が個別に工夫し設定しています。学生の本分としての勉学への取り組み姿勢、情報画像学科の特徴と授業科目、卒業研究、大学院への進路等に関するアドバイスから、研究室の紹介、将来方向への指針、さらには学業以外の学生生活におよぶテーマなど自由に取上げます。グループ内での討論や教官との触れあいを通じて、相互に啓発されるように配慮して進めます。

[キーワード] 少人数セミナー, オリエンテーション

[教科書・参考書] 特になし。必要に応じて、参考資料や討論用のプリントを配布したり、皆さんから収集した情報をグループ内で使用します。

[評価方法・基準] 出席で評価する。

[履修要件] 特になし。

T1U002001

授業科目名：情報画像概論
 科目英訳名：Introduction to Information & Image Sciences
 担当教員：黒岩 眞吾
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：1 年後期水曜 4 限
 授業コード：T1U002001
 講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2015 年入学生：専門必修 F10 (T1KI:情報画像学科 (先進科学) , T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 84 名

[受講対象] 情報画像学科 1 年生必修 (過年度生, 編入生, 他学科の学生さんは T1U002002 を受講してください)

[授業概要] 情報画像学科において、専門科目を学び進めていくための基礎知識として、情報数学、デジタル信号、計算機ハードウェア及びソフトウェアの基礎を講義する。また、情報技術が社会に及ぼす影響を幅広い視野で考える力を身につけるための講義・演習を行う。特に、情報化が社会に及ぼす影響、情報技術を学ぶものが身に付けておかなければならない高度な情報倫理、守るべき情報モラルについて自分で学び続ける力を身につけるための方法を紹介する。また、変化している情報化社会を柔軟にかつ十分身に付けてもらうため、一方的な講義だけでなく、討論形式を取り入れて一人一人が考え発表できる講義とする。

[目的・目標] 情報画像学科の専門科目の構造「1. 情報と数理」、「2. 情報と人間」、「3. 情報と物理」の全体像を把握し、基礎的な知識を身に着けると共に、工学者として考え発表できる力を養う。また、情報化が社会に及ぼす影響についても幅広い視野で考える力を身につける。さらに、情報技術を学ぶものが身に付けておかなければならない高度な情報倫理、守るべき情報モラルについて自から学ぶことのできる力を身に付ける。具体的な目標は以下のとおりである。
 ・?知識・理解：2 進数の演算、数値・文字・音声・画像のデジタル表現、計算機の構造と動作原理について説明できる。
 ・?思考・判断：情報技術者として情報倫理、守るべき情報モラルに基づき考え、判断できる。
 ・?関心・意欲：情報技術について、何故その方法がとられるかに興味を持てる。また、新しい情報技術に常に関心を持ち情報収集ができる。
 ・?態度：期限内にレポートを実施できる。他者と協力しての調査・発表ができる。
 ・?技能・表現：情報技術に関してわかり易く他者に説明できる。

[授業計画・授業内容] 下記の予定で講義および演習を行う。なお、授業で用いるパワーポイントは講義前の週末を目途に Web 上で公開するので予習を十分行っておくことが望まれる。

1. 工学の学び方
2. 2進数とデジタル信号(1); 整数の2進数, 16進数表現
3. 2進数とデジタル信号(2); 実数の2進数, 16進数表現とIEEE754浮動小数点表現
4. 音と画像のデジタル表現(1); アナログ信号を計算機で取得する方法
5. 音と画像のデジタル表現(2); 画像のデジタル表現
6. 音と画像のデジタル表現(3); 音声のデジタル表現
7. 論理回路(1); 論理演算と組み合わせ論理回路
8. 論理回路(2); 順序回路とタイミングチャート
9. コンピュータの基本構成(1); 基本動作とCPU, 主記憶装置
10. コンピュータの基本構成(2); ファイルシステムと周辺機器
11. ソフトウェアとアルゴリズム; OSの役割とプログラミング(冬休みの宿題)
12. ネットワークとセキュリティ; インターネットのセキュリティと個人情報の保護および著作権
13. 期末試験
14. プレゼンテーション演習1; 身近な技術について調査しパワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて毎毎に発表を行う。
15. プレゼンテーション演習2; 身近な技術について調査しパワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて毎毎に発表を行う
16. プレゼンテーション演習3; 身近な技術について調査しパワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて毎毎に発表を行う

[キーワード] 2進数, デジタル, コンピュータ, ソフトウェア, ネットワーク, 情報倫理

[教科書・参考書] 教科書: 大内東・岡部成玄・栗原正仁 編著『情報学入門』(コロナ社) 参考書: 大内東(編)『文系学生がまなぶ情報学』(コロナ社)

[評価方法・基準] 第13回の「期末テスト」を利用したうえ、平常点(小テストによる加点・減点、欠席、遅刻による減点)、レポート(内容に応じた加点・減点未提出による減点)及びプレゼンテーション(原則加点)を加味し総合的に評価する。ただし、期末試験が60点未満の場合は不合格とする。

[関連科目] 2年生以上の多くの専門科目で必要となる知識を習得する

[履修要件] 高校の『情報A/B/C』および『数学B』の「数値計算とコンピュータ」を十分学んでおくこと

[備考] 12回以上の出席を単位取得の前提条件とする。

T1U002002

授業科目名: 情報画像概論 科目英訳名: Introduction to Information & Image Sciences 担当教員: 黒岩 眞吾 単位数: 2.0 単位 授業コード: T1U002002	開講時限等: 1年後期水曜5限 講義室: 工2号棟103教室
--	-----------------------------------

科目区分

2015年入学生: 専門必修 F10 (T1KI:情報画像学科(先進科学), T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 60名

[受講対象] 自学部他学科生 履修可; 他学科、再履修生、過年度生、編入生を対象とする(情報画像科新生はT1U002001を履修してください)

[授業概要] 情報画像学科において、専門科目を学び進めていくための基礎知識として、情報数学、デジタル信号、計算機ハードウェア及びソフトウェアの基礎を講義する。また、情報技術が社会に及ぼす影響を幅広い視野で考える力を身につけるための講義・演習を行う。特に、情報化が社会に及ぼす影響、情報技術を学ぶものが身に付けておかなばならない高度な情報倫理、守るべき情報モラルについて自分で学び続ける力を身に付けるための方法を紹介する。また、変化している情報化社会を柔軟にかつ十分身に付けてもらうため、一方的な講義だけでなく、討論形式を取り入れて一人一人が考え発表できる講義とする。

[目的・目標] 情報画像学科の専門科目の構造「1. 情報と数理」、「2. 情報と人間」、「3. 情報と物理」の全体像を把握し、基礎的な知識を身に着けると共に、工学者として考え発表できる力を養う。また、情報化が社会に及ぼす影響についても幅広い視野で考える力を身につける。さらに、情報技術を学ぶものが身に付けておかなばならない高度な情報倫理、守るべき情報モラルについて自から学ぶことのできる力を身に付ける。具体的な目標は以下のとおりである。?知識・理解：2進数の演算、数値・文字・音声・画像のデジタル表現、計算機の構造と動作原理について説明できる。?思考・判断：情報技術者として情報倫理、守るべき情報モラルに基づき考え、判断できる。?関心・意欲：情報技術について、何故その方法がとられるかに興味を持てる。また、新しい情報技術に常に関心を持ち情報収集ができる。?態度：期日内にレポートを実施できる。他者と協力しての調査・発表ができる。?技能・表現：情報技術に関してわかり易く他者に説明できる。

[授業計画・授業内容] 下記の予定で講義および演習を行う。なお、授業で用いるパワーポイントは講義前の週末を目途に Web 上で公開するので予習を十分行っておくことが望まれる。

1. 実力テスト
2. 2進数とデジタル信号(1)
3. 2進数とデジタル信号(2)
4. 音と画像のデジタル表現(1)
5. 音と画像のデジタル表現(2)
6. 音と画像のデジタル表現(3)
7. 論理回路(1)
8. 論理回路(2)
9. 論理回路(3)
10. コンピュータの基本構成(1)
11. コンピュータの基本構成(2)
12. コンピュータの基本構成(3)
13. ソフトウェアとアルゴリズム
14. ネットワークとセキュリティ
15. 2～14回の総合演習

[キーワード] 2進数, デジタル, コンピュータ, ソフトウェア, ネットワーク, 情報倫理

[教科書・参考書] 教科書：大内東・岡部成玄・栗原正仁 編著『情報学入門』(コロナ社)

[評価方法・基準] 第15回の講義内で行う「期末テスト」、平常点(小テストによる加点・減点、欠席、遅刻による減点)、レポート(内容に応じた加点・減点未提出による減点)を加味し総合的に評価する。ただし、上述の「期末テスト」が60点未満の場合は不合格とする。

[関連科目] 2年生以上の多くの専門科目で必要となる知識を習得する

[履修要件] 高校の『情報A/B/C』および『数学B』の「数値計算とコンピュータ」を十分学んでおくこと

[備考] 11回以上の出席を単位取得の前提条件とする。再履修の学生で「基本情報技術者試験」合格者は、担当教員と事前に相談してください。

T1U004001

授業科目名：情報画像リテラシー

科目英訳名：Computer Literacy for Information and Image Sciences

担当教員：今泉 貴史

単位数：2.0 単位

開講時限等：1年後期火曜2限

授業コード：T1U004001

講義室：総 A4F 情報処理演習室 2

科目区分

2015年入学生：専門必修 F10 (T1KI:情報画像学科(先進科学), T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 50

[授業概要] コンピュータを道具として使いこなすために表計算ソフトウェアについて学ぶ。また、コンピュータプログラミングを学ぶ準備として、プログラミング言語 C について学ぶ。

[目的・目標] コンピュータは勝手に必要な計算を行ってくれるものではなく、ユーザが計算の仕方を指定しなければならない。そのためのソフトウェアとして表計算ソフトウェアを取り上げ、複雑な処理を計算として指定する方法について学ぶ。また、プログラミング能力の基礎を身につけるために C 言語の構文などを学ぶ。この講義と合わせ、第 3 セメスターの「プログラムの設計と実現」でプログラミングを学習することにより、C 言語によるプログラミングを一通りマスターすることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 前半で表計算ソフトウェアについて学習し、後半では C 言語について学習する。

1. ガイダンス
2. 表計算ソフトウェア (1)
3. 表計算ソフトウェア (2)
4. 表計算ソフトウェア (3)
5. 表計算ソフトウェア (4)
6. 表計算ソフトウェア (5)
7. 表計算ソフトウェア (6)
8. プログラミング
9. エディタ・プログラミング環境
10. C 言語の基礎
11. 変数・型
12. 制御構造 (1)
13. 制御構造 (2)
14. 配列
15. 期末試験

[キーワード] 表計算ソフトウェア, C 言語, プログラミング

[教科書・参考書] 教科書: 「新版 明解 C 言語」、ソフトバンクパブリッシング、柴田望洋 著、2,200 円、ISBN4-7973-2792-8

[評価方法・基準] 講義の中で行う演習課題、宿題、および、期末試験に基づき評価する

[履修要件] 「情報処理」を履修していること

T1U004002

授業科目名: 情報画像リテラシー

科目英訳名: Computer Literacy for Information and Image Sciences

担当教員: 今泉 貴史

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 1 年後期火曜 4 限

授業コード: T1U004002

講義室: 総 A4F 情報処理演習室 2

科目区分

2015 年入学生: 専門必修 F10 (T1KI:情報画像学科 (先進科学) , T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 50

[授業概要] コンピュータを道具として使いこなすために表計算ソフトウェアについて学ぶ。また、コンピュータプログラミングを学ぶ準備として、プログラミング言語 C について学ぶ。

[目的・目標] コンピュータは勝手に必要な計算を行ってくれるものではなく、ユーザが計算の仕方を指定しなければならない。そのためのソフトウェアとして表計算ソフトウェアを取り上げ、複雑な処理を計算として指定する方法について学ぶ。また、プログラミング能力の基礎を身につけるために C 言語の構文などを学ぶ。この講義と合わせ、第 3 セメスターの「プログラムの設計と実現」でプログラミングを学習することにより、C 言語によるプログラミングを一通りマスターすることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 前半で表計算ソフトウェアについて学習し、後半では C 言語について学習する。

1. ガイダンス
2. 表計算ソフトウェア (1)
3. 表計算ソフトウェア (2)
4. 表計算ソフトウェア (3)

5. 表計算ソフトウェア (4)
6. 表計算ソフトウェア (5)
7. 表計算ソフトウェア (6)
8. プログラミング
9. エディタ・プログラミング環境
10. C 言語の基礎
11. 変数・型
12. 制御構造 (1)
13. 制御構造 (2)
14. 配列
15. 期末試験

[キーワード] 表計算ソフトウェア, C 言語, プログラミング

[教科書・参考書] 教科書: 「新版 明解 C 言語」、ソフトバンクパブリッシング、柴田望洋 著、2,200 円、ISBN4-7973-2792-8

[評価方法・基準] 講義の中で行う演習課題、宿題、および、期末試験に基づき評価する

[履修要件] 「情報処理」を履修していること

T1U005001

授業科目名: 情報数学 I

科目英訳名: Mathematics for Information Science I

担当教員: 岸本 渡

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 2 年前期金曜 4 限

授業コード: T1U005001

講義室: 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生: 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 情報画像学科 2 年生必修

[授業概要] 情報画像学科での専門科目を学ぶための基礎となる数学について演習、講義を行う。計算機科学の基礎となる数学 (離散数学、代数学など) に関する基礎的事項について例を示しながら講述する。

[目的・目標] 情報系で用いられる数学 (離散数学、代数学など) に関する基礎的事項の習得を目的とする。集合、関係、論理、初等整数論、代数学についての基礎的知識を得て、各専門分野で用いられる数学を必要に応じて独力で修得できるようにすることを目標とする。

[授業計画・授業内容]

1. 集合
2. 集合の演算
3. 写像
4. 同値関係
5. 順序関係
6. 命題論理
7. 真理値表、標準形
8. 述語論理
9. 集合、写像、関係、論理のまとめ
10. 組合せ
11. 整数の性質
12. 合同式
13. 代数系と群
14. 環と体

15. 総まとめ

[キーワード] 情報数学、集合、関係、論理、初等整数論、代数、

[教科書・参考書] 教科書：IT Text 離散数学，松原他，オーム社。

[評価方法・基準] 8回または9回の講義内で中間試験を、また、15回の講義内で期末試験試験を実施する。2回の試験と講義中に行う小テストにより評価する。中間試験、期末試験、小テストの評価の割合は4:4:2程度を目安とする。

[関連科目] 情報数学2を履修する前に情報数学1を履修しておくことが望ましい。

[履修要件] 特になし

[備考] 2004年度から2007年度の入学生が情報数学Iと情報数学IIの両方の科目を履修しても、卒業要件単位とすることができるのはどちらかのみであるので注意すること。

T1U006001

授業科目名： 計算機システム入門

科目英訳名： Introduction to Computer Systems

担当教員： 難波 一輝

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 2 年前期木曜 1 限

授業コード： T1U006001

講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生： 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 100 名

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可; 情報画像学科 2 年生必修

[授業概要] 計算機システムの基本構造と動作を理解するため、数や記号の表現原理、計算機の基本構造、命令とアセンブリ言語、アセンブラの動作、基本計算機回路を学ぶ。学生が自主的に学ぶことに重点を置いて、教科書と Web 上に示す講義資料に基づいて学生は毎回の講義範囲の予習をし、講義時間中には学生の質問内容への回答、および演習を中心に講義を行って学習と理解を深める。

[目的・目標] 電子計算機システムの基本的な原理、構造、動作を理解することを目的とする。電子計算機システムを始め、インターネット、家電製品、携帯機器、自動車、産業機械、航空機など今日のほとんどあらゆる機器には電子計算機が組み込まれている。したがって、これからの技術者には、電子計算機システムの基本的な原理、構造、動作を理解することが必須の条件となっている。本講義ではこれらの基本事項を修得し、活用できるようにする。

[授業計画・授業内容] 下記の予定で演習を中心に講義を行う。学生は教科書と Web 上に示す講義資料に基づいて毎回の講義範囲の予習をしていくことが大切である。講義時間中には学生の質問内容への回答と大切な項目を演習問題を通して学習し理解を深める。

1. 計算機システムの構造と動作, 計算機の論理構造, 計算機の歴史
2. 整数の表現, 加減算, 負の整数の表現
3. 小数点を含む数の表現, 浮動小数点表現
4. 計算機の基本動作, COMET の概要, COMET の命令の概要
5. アセンブリ言語 CASL, 命令の種類と形式, アセンブラの動作概要
6. 計算機回路の分類, ブール代数, 基本演算と論理関数
7. 論理関数の表現法
8. 第 1 回 ~ 第 7 回講義内容の総まとめ
9. 論理関数の簡単化
10. 組合せ論理回路
11. 演算回路
12. 記憶回路, 半導体メモリ, フリップフロップ回路
13. 順序回路の概念
14. 順序回路の構成
15. 第 9 回 ~ 第 14 回講義内容の総まとめ

[キーワード] 計算機システム, 数, 文字, 記号, 命令, アセンブラ, 演算回路, 記憶回路, 順序回路

[教科書・参考書] 伊藤秀男, 倉田是著, 「入門計算機システム」, 朝倉書店

[評価方法・基準] 出席および授業で行う演習 30%, 第 8 回講義の中で行う中間試験 35%, 第 15 回講義の中で行う期末試験 35%の合計 100%により評価する。

[関連科目] 計算機ハードウェア, 計算機アーキテクチャ, プログラム言語の構造, デジタル信号処理, オペレーティングシステムなど計算機の構造や動作およびデジタル処理 (論理回路) の学習の基礎にもなっている。

[備考] 11 回以上の出席を単位取得の前提条件とする。

T1U007001

授業科目名: プログラムの設計と実現 I

科目英訳名: Design and Implementation of Computer Programs I

担当教員: 堀内 靖雄

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 2 年前期木曜 2 限

授業コード: T1U007001

講義室: 工 1 号棟 5 階 501 情報工学演習室 (1), 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生: 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 120 (画像科学科との合計)

[授業概要] コンピュータプログラミングの基礎を学ぶ。C 言語を用いたプログラミングを身につけることにより、アルゴリズム構築について学ぶ。本講義は情報画像学科の学生にとっては必修であり、今後の実験等において本講義で身に付けた能力が必要となる。画像科学科の学生にとっては選択科目であるが、本講義を履修することにより、プログラミングの基礎、C 言語プログラミングの基礎について学ぶことが可能である。

[目的・目標] C 言語の簡単なプログラムを一人で記述できるようになることを学習目標とする。将来、コンピュータを使いこなせるようになるためには、プログラミングの基礎を身につけることは非常に重要である。その中でも手続き型言語は計算方法 (アルゴリズム) を考える基礎を身につけるために最適である。本講義ではプログラミングの基本となる (1) 変数 (2) 条件分岐 (3) 繰り返し (4) 配列 (5) 関数を学習し、アルゴリズム実現の基本的な能力を身に付ける。その後、C 言語のプログラミングに必要な (6) 文字列 (7) ポインタ (8) 再帰 (9) 構造体 (10) ファイル入出力の各方法を理解する。最後に (11) 大規模プログラミングのためのモジュール化と (12) 高度なポインタの使い方としての自己参照構造体によるリスト構造を実現できるようにする。

[授業計画・授業内容] 本講義に先行する「情報画像リテラシー」で C 言語の導入を終えており、本講義ではその復習から始まり、プログラミングの基本を身に付けた後、C 言語特有のプログラミング技法を学び、最後に若干、高度な内容を身に付ける。本講義により、今後の実験等に必要となるプログラミング能力を身に付けることができる。本講義と同 semestre で開講されている「プログラム演習」を受講することにより、高度なプログラミングの演習を行うことができる。講義資料は WWW 上に公開する。

1. ガイダンス, 復習 (変数, 演算と型, 条件分岐, 繰り返し)
2. 配列
3. 関数
4. 基本型, 再帰
5. 文字, 文字列
6. ポインタ
7. 文字列とポインタ
8. コマンドライン引数
9. 構造体
10. ファイル入出力
11. モジュールプログラミング
12. 自己参照構造体, リスト構造
13. ポインタの配列
14. 総復習
15. まとめと期末テスト

[キーワード] プログラミング, C 言語, アルゴリズム, データ構造

[教科書・参考書] 新版 明解 C 言語 入門編 柴田望洋著 ソフトバンク。その他、C 言語に関しては多数の書籍が出版されているので、各自、自分の能力や好みに応じて、参考書を用意すると良い。C 言語について深く知りたい人は C 言語を作った人の本、B.W. カーニハン、D.M. リッチー著、石田晴久訳「プログラミング言語 C 第 2 版」(The C Programming Language 2nd Edition) 等も参考に。

[評価方法・基準] 出席、演習課題、期末テストに基づき評価する。

[関連科目] 「情報画像リテラシー」で C 言語の導入を行う。「プログラム演習」にて実際に計算機を利用した演習を行う。その後の実験等においても C 言語によるプログラミング課題が存在する。

[履修要件] 「情報画像リテラシー」を履修していること。

[備考] 質問や意見等は講義中、講義後、オフィスアワー等で随時受け付ける。

T1U008001

授業科目名： フーリエ変換と画像 科目英訳名： Fourier Transform for Information and Image Sciences 担当教員： 堀内 隆彦 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1U008001	開講時限等： 2 年前期火曜 2 限 講義室： 工 17 号棟 113 教室
---	---

科目区分

2014 年入学生： 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 制限なし

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 基本的な数学および信号処理モデルを説明した後、フーリエ級数展開、フーリエ変換、離散フーリエ変換、FFT、2次元フーリエ変換、フィルタリングなどを画像と絡めながら、毎回演習を交えて講義する。演習問題の解説は次の講義で行うので、解けなかった問題については、次週までに学習してくることが望ましい。

[目的・目標] 本科目の学習目標は、デジタル画像処理などの情報画像工学や、光学などの画像科学において、基本的かつ有用であるフーリエ変換の基本的性質を受講生が理解し、画像との関連性について学ぶことである。具体的な達成目標は以下のとおりである。(1) フーリエ級数展開の原理を理解し、簡単な計算問題を解くことができる。(2) フーリエ変換および離散フーリエ変換の原理理解し、簡単な計算問題を解くことができる。(3) 工学的に実利用する場合に必要な FFT, AD/DA 変換, 標本化定理との関係を理解できる。(4) フーリエ変換を 2 次元信号へ拡張して理解し、画像工学や画像科学における有用性を説明できる。なお、試験前には、毎回の演習問題を振り返り、達成目標に到達しているかを確認することが望ましい。

[授業計画・授業内容]

1. 総論
2. フーリエ級数
3. フーリエ展開
4. フーリエ級数展開のベクトル表現
5. フーリエ級数展開の複素形式
6. 1次元フーリエ変換 (1)
7. 1次元フーリエ変換 (2)
8. 離散フーリエ変換 (1)
9. 離散フーリエ変換 (2)
10. 高速フーリエ変換
11. AD・DA変換と標本化定理
12. 2次元フーリエ変換 (1)
13. フーリエ変換と画像 (1)
14. フーリエ変換と画像 (2)
15. 全体のまとめと期末試験

[教科書・参考書] 教科書は利用しない。適宜プリントなどを配布する。フーリエ変換に関する参考書は種々のレベルで多く出版されているので、個人の理解に即して選択することが望ましい。

[評価方法・基準] 毎時間行う演習 (50%) と期末試験 (50%) によって評価する。ただし、毎時間の演習の平均点が 80% 以上であれば、期末試験を免除することがある。期末試験において不正行為が発覚した場合には不可とする。

[関連科目] 本科目を学習することは、様々な科目で重要となるが、特に以下の科目の履修において重要となる。「電磁波と光」「情報理論」「デジタル信号処理」「デジタル画像処理」「視覚情報処理」「回路理論 II」「振動と波動」

[備考] 学籍番号末尾が偶数の学生を対象とする。

T1U008002

授業科目名： フーリエ変換と画像

科目英訳名： Fourier Transform for Information and Image Sciences

担当教員： 堀内 隆彦

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 2 年前期火曜 3 限

授業コード： T1U008002

講義室： 工 17 号棟 113 教室

科目区分

2014 年入学生： 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 制限なし

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 基本的な数学および信号処理モデルを説明した後、フーリエ級数展開、フーリエ変換、離散フーリエ変換、FFT、2次元フーリエ変換、フィルタリングなどを画像と絡めながら、毎回演習を交えて講義する。演習問題の解説は次の講義で行うので、解けなかった問題については、次週までに学習していただくことが望ましい。

[目的・目標] 本科目の学習目標は、デジタル画像処理などの情報画像工学や、光学などの画像科学において、基本的かつ有用であるフーリエ変換の基本的性質を受講生が理解し、画像との関連性について学ぶことである。具体的な達成目標は以下のとおりである。(1) フーリエ級数展開の原理を理解し、簡単な計算問題を解くことができる。(2) フーリエ変換および離散フーリエ変換の原理理解し、簡単な計算問題を解くことができる。(3) 工学的に実利用する場合に必要となる FFT, AD/DA 変換, 標本化定理との関係を理解できる。(4) フーリエ変換を 2 次元信号へ拡張して理解し、画像工学や画像科学における有用性を説明できる。なお、試験前には、毎回の演習問題を振り返り、達成目標に到達しているかを確認することが望ましい。

[授業計画・授業内容]

1. 総論
2. フーリエ級数
3. フーリエ展開
4. フーリエ級数展開のベクトル表現
5. フーリエ級数展開の複素形式
6. 1次元フーリエ変換 (1)
7. 1次元フーリエ変換 (2)
8. 離散フーリエ変換 (1)
9. 離散フーリエ変換 (2)
10. 高速フーリエ変換
11. AD・DA変換と標本化定理
12. 2次元フーリエ変換 (1)
13. フーリエ変換と画像 (1)
14. フーリエ変換と画像 (2)
15. 全体のまとめと期末試験

[教科書・参考書] 教科書は利用しない。適宜プリントなどを配布する。フーリエ変換に関する参考書は種々のレベルで多く出版されているので、個人の理解に即して選択することが望ましい。

[評価方法・基準] 毎時間行う演習 (50%) と期末試験 (50%) によって評価する。ただし、毎時間の演習の平均点が 80% 以上であれば、期末試験を免除することがある。期末試験において不正行為が発覚した場合には不可とする。

[関連科目] 本科目を学習することは、様々な科目で重要となるが、特に以下の科目の履修において重要となる。「電磁波と光」「情報理論」「デジタル信号処理」「デジタル画像処理」「視覚情報処理」「回路理論 II」「振動と波動」

[備考] 学籍番号末尾が奇数の学生を対象とする。

T1U009001

授業科目名： 回路理論 I

〔千葉圏域開放科目〕

科目英訳名： Electric Circuit Theory I

担当教員： 関屋 大雄

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 2 年前期水曜 1 限

授業コード： T1U009001

講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生： 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 本講義では「電気回路は工学の言語である」を合言葉に、電気回路の基本を理解すべく、種々の基礎的概念を講義する。毎週の講義には必ず演習の時間を設け、各自が手を動かすことによって理解を深められるよう進める。

[目的・目標] 電気回路の基礎特性を理解するとともに、グラフ理論、微分方程式の解法、フィルタ理論などの基礎に触れ、実際に自らの手を動かすことによって理解することを目的とする。基本的な回路素子である電源、抵抗、コンデンサ、インダクタンス (コイル) の性質を理解し、その上で回路方程式を立てられるようになる。さらに、回路方程式 (常微分方程式) の解法を通じ基本回路の性質を説明できる。最後に正弦波定常状態の解析手法であるフェーザ法を通じ、フィルタの基礎理論を理解できる。

[授業計画・授業内容] 講義内容はその週に理解することを原則とする。演習問題を時間内に解けない場合、時間外学習が必要である。学習効率を上げるため、講義終了後オフィスアワーを設け、理解不足な点をすぐにフォローできる体制を整える。

1. イントロダクション「電気回路は工学の言語である」
2. 回路素子の性質 (1) 抵抗, 電圧源, 電流源
3. 回路素子の性質 (2) 電源の変換, コンデンサ
4. 回路素子の性質 (3) インダクタンス
5. 回路方程式 (1) 接点方程式と網路方程式
6. 回路方程式 (2) 閉路方程式とカットセット方程式
7. 回路方程式 (3) 双対な回路
8. 基本回路の性質 (1) 常微分方程式による回路表現
9. 基本回路の性質 (2) 線形微分方程式の解法
10. 基本回路の性質 (3) 1 階微分方程式で表される回路
11. 基本回路の性質 (4) 2 階微分方程式で表される回路
12. 正弦波定常状態の解析 (1) インピーダンスとアドミタンス
13. 正弦波定常状態の解析 (2) 正弦波電圧, 電流の実効値
14. 正弦波定常状態の解析 (3) 共振フィルタと周波数応答
15. 正弦波定常状態の解析 (4) ローパスフィルタ
16. 試験

[キーワード] 電気回路, 回路素子, 直流解析, 交流解析, 回路方程式, 常微分方程式, フィルタ

[教科書・参考書] 教科書: 「電気回路ノート」 森真著作, コロナ社 (講義で用いる)。参考書: 「電気回路演習ノート」 同上 (講義中には用いないが, 本講義の演習書として最適である) その他, 多くの本が出版されているので, 自分で分かりやすそうなものを選ぶと良い。

[評価方法・基準] 毎週講義のはじめに演習 (小テスト) を行う。さらに試験を行い, 演習 1/3, 試験 2/3 の比重で評価する。

[関連科目] 回路理論 II, 微分方程式, フーリエ変換と画像, 情報画像工学実験 I

[履修要件] 特になし。

[備考] 本講義は電気回路の導入部分であり、基礎的な内容に終始する。回路理論 II も受講することにより、社会に出ても通用する電気回路の最低限の知識を網羅することができる。オフィスアワーは講義終了後終日、工学部 1 号棟 5 階 5 1 5 室にて。事前連絡不要。オフィスアワーは講義終了後終日 (事前連絡不要)

T1U010001

授業科目名：プログラム演習	
科目英訳名：Computer Programming Practice	
担当教員：森 康久仁	
単位数：2.0 単位	開講時限等：2 年前期金曜 3 限
授業コード：T1U010001	講義室：工 1 号棟 5 階 501 情報工学演習室 (1)

科目区分

2014 年入学生：専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] 本演習では、同セメスター開講の「プログラムの設計と実現 I」の講義に基づいて、実際の計算機上でのプログラム演習を行う。プログラミング環境として Linux を用い、C 言語によるプログラミングを通してコンピュータの動作を説明し、代表的なアルゴリズムおよびその設計方法を紹介する。各週毎に関連事項の解説を行った後、プログラミング課題を課す。演習・実習科目であるため、出席し演習時間中に計算機に向かってプログラミングを行うことが必須である。

[目的・目標] 本演習の目的は、1)「プログラムの設計と実現 I」により講義された内容の定着 2) C 言語のプログラミングを通じたコンピュータの動作の理解 3) 代表的なデータ構造とアルゴリズムの理解である。その上で、C 言語によるプログラムを何も無い状態から一人で記述できるようになることを学習目標とする。

[授業計画・授業内容] 同セメスタで開講されている「プログラムの設計と実現 I」により講義された内容を、実際に計算機で実装することで、C 言語の基礎とプログラミング技法を学ぶ。演習する内容は以下の通りである。各内容に対応する解説と課題をプリントで配布し、各週の演習課題のソースコードを実行結果などと共に提出する。

1. ガイダンス、条件分岐・繰り返しを用いたプログラム (1)
2. グラフ作成ソフトとの連携したプログラム (条件分岐・繰り返しを用いたプログラム (2))
3. 数値計算の基礎 (条件分岐・繰り返しを用いたプログラム (3))
4. 配列を用いたプログラム
5. 文字列を用いたプログラム
6. 関数を利用したプログラム
7. ポインタを用いたプログラム (1)
8. ポインタを用いたプログラム (2)
9. 構造体を用いたプログラム
10. ファイル処理
11. 応用課題 (1)
12. 自己参照構造体 (1)
13. 自己参照構造体 (2)
14. アルゴリズムとデータ構造
15. 応用課題 (2)

[キーワード] プログラミング, C 言語, アルゴリズム, データ構造

[教科書・参考書] 新・明解 C 言語 入門編, 柴田望洋, ソフトバンク, 2014

[評価方法・基準] 出席・演習課題 (宿題) に基づき評価する。出席と課題の評価割合は概ね 4:6 で評価する。ただし、全演習数の 1/5 より多い回数を欠席した場合は単位を与えない。課題は以下の事項等について各回の課題ごとに総合的に評価する。・プログラムが正常に動作するか (エラー等がなく実行可能か) ・適切な結果を得ることができているか・コードが適切に書かれているか (無駄なコードやわかりにくいコードがないか) ・適切なコメントが記述されているか・etc

[関連科目] ・情報処理, 1 年次 / 第 1 セメスター・情報画像リテラシー, 1 年次 / 第 2 セメスター・プログラムの設計と実現 I, 2 年次 / 第 3 セメスター

[履修要件] 1) 第2セメスター開講の「情報画像リテラシー」を履修していること。2) 同セメスター開講の「プログラムの設計と実現Ⅰ」を受講していること。3) LINUX によるコンピュータの操作法の基礎を習得していること。

[備考] 学籍番号末尾が偶数の学生を対象とする。

T1U010002

授業科目名：プログラム演習	
科目英訳名：Computer Programming Practice	
担当教員：森 康久仁	
単位数：2.0 単位	開講時限等：2 年前期金曜 2 限
授業コード：T1U010002	講義室：工 1 号棟 5 階 501 情報工学演習室 (1)

科目区分

2014 年入学生：専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] 本演習では、同セメスター開講の「プログラムの設計と実現Ⅰ」の講義に基づいて、実際の計算機上でのプログラム演習を行う。プログラミング環境として Linux を用い、C 言語によるプログラミングを通してコンピュータの動作を説明し、代表的なアルゴリズムおよびその設計方法を紹介する。各週毎に関連事項の解説を行った後、プログラミング課題を課す。演習・実習科目であるため、出席し演習時間中に計算機に向かってプログラミングを行うことが必須である。

[目的・目標] 本演習の目的は、1)「プログラムの設計と実現Ⅰ」により講義された内容の定着 2) C 言語のプログラミングを通じたコンピュータの動作の理解 3) 代表的なデータ構造とアルゴリズムの理解である。その上で、C 言語によるプログラムを何も無い状態から一人で記述できるようになることを学習目標とする。

[授業計画・授業内容] 同セメスタで開講されている「プログラムの設計と実現Ⅰ」により講義された内容を、実際に計算機で実装することで、C 言語の基礎とプログラミング技法を学ぶ。演習する内容は以下の通りである。各内容に対応する解説と課題をプリントで配布し、各週の演習課題のソースコードを実行結果などと共に提出する。

1. ガイダンス、条件分岐・繰り返しを用いたプログラム (1)
2. グラフ作成ソフトとの連携したプログラム (条件分岐・繰り返しを用いたプログラム (2))
3. 数値計算の基礎 (条件分岐・繰り返しを用いたプログラム (3))
4. 配列を用いたプログラム
5. 文字列を用いたプログラム
6. 関数を利用したプログラム
7. ポインタを用いたプログラム (1)
8. ポインタを用いたプログラム (2)
9. 構造体を用いたプログラム
10. ファイル処理
11. 応用課題 (1)
12. 自己参照構造体 (1)
13. 自己参照構造体 (2)
14. アルゴリズムとデータ構造
15. 応用課題 (2)

[キーワード] プログラミング, C 言語, アルゴリズム, データ構造

[教科書・参考書] 新・明解 C 言語 入門編, 柴田望洋, ソフトバンク, 2014

[評価方法・基準] 出席・演習課題 (宿題) に基づき評価する。出席と課題の評価割合は概ね 4:6 で評価する。ただし、全演習数の 1/5 より多い回数を欠席した場合は単位を与えない。課題は以下の事項等について各回の課題ごとに総合的に評価する。・プログラムが正常に動作するか (エラー等がなく実行可能か) ・適切な結果を得ることができているか・コードが適切に書かれているか (無駄なコードやわかりにくいコードがないか) ・適切なコメントが記述されているか・etc

[関連科目] ・情報処理, 1 年次 / 第 1 セメスター・情報画像リテラシー, 1 年次 / 第 2 セメスター・プログラムの設計と実現Ⅰ, 2 年次 / 第 3 セメスター

[履修要件] 1) 第2セメスター開講の「情報画像リテラシー」を履修していること。2) 同セメスター開講の「プログラムの設計と実現Ⅰ」を受講していること。3) LINUX によるコンピュータの操作法の基礎を習得していること。

[備考] 学籍番号末尾が奇数の学生を対象とする。

T1U011001

授業科目名： 工学倫理（情報画像）

科目英訳名： Engineering Ethics

担当教員： (河村 尚登)

単位数： 2.0 単位

授業コード： T1U011001

開講時限等： 2 年前期月曜 5 限

講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生： 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 工学は我々の生活を豊かにする反面、使い道を間違えると人間生活や地球環境、さらには将来の生命体を脅かす存在となる。従って、工学技術者は技術の利用・応用面に対して常に責任ある判断や決定を果たしていく必要がある。本講義では、工学者の使命や役割、社会との係わりを広範な視点から論述し、技術者としてのあるべき姿を教え、各種事例研究を通じて予防倫理を習得することを目的とする。

[目的・目標] 各種事例研究を通じて、技術者としての使命・責任・倫理観を身につけ、正しい技術の発展と社会貢献を進めるための基本的な概念と知識を習得することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 工学倫理 概論： 「なぜ工学倫理が必要なのか」、「技術者にとっての倫理」、「予防倫理学習」等について学ぶ。
2. 組織における個人、企業の社会的責任： いくつかの事例研究を通して、「経営の論理と技術者倫理」、「優先度の論理」、「企業の社会的責任」等について学ぶ。
3. 技術者と倫理—内部告発： 事例研究から内部告発の条件、内部告発の倫理について学ぶ。また、内部告発を巡る制度や企業の対応等を紹介する。
4. 安全性とリスク： 新規技術に対するリスクの考え方について論じ、情報開示、技術者としての説明責任等について学ぶ。
5. 製造物責任と品質管理： 製造物責任法（PL 法）の内容と制定の背景、製造者（技術者）に要求されること、企業における対策等について事例研究を通じて学ぶ。
6. 知的財産権と倫理/工業所有権： 工業所有権の目的・理念、国による制度の違い等について学ぶ。また特許権取得の流れ、明細書の書き方、ソフトウェア特許、システムモデル特許等を紹介する。
7. 知的財産権と倫理/特許訴訟： サブマリン特許問題や特許訴訟問題に関する事例研究を通じて、特許のあり方、職務発明、権利帰属の問題等について学ぶ。
8. 著作権と倫理： 著作権制度の内容、著作人格権、著作隣接権について学び、文書やデジタルコンテンツのハード/ソフトコピー、Web 上の情報配信での著作権倫理について学ぶ。
9. ネットワークと倫理： ネットワークの拡大による社会的変化、ネットワークの不正使用問題、プライバシー侵害問題、ファイル交換/配信問題等を、各種事例研究を通じてネット上での倫理観を学ぶ。
10. 環境倫理と技術者： 環境と技術、地球規模での環境問題、化学物質のリスク、PRTR 法等について学び、自然との調和将来の世代のための持続可能な開発について学ぶ。
11. 生命倫理と技術者： 生命倫理とは何か、臓器移植、安楽死、遺伝子操作等についての倫理上の問題を考え、工学領域においても生命倫理の必要性を学ぶ。
12. 国際活動と倫理： グローバル化に伴う問題、異文化との摩擦、外国企業と日本企業の違い、雇用制度の違い等を理解し、国際標準化活動や国際協力活動状況を紹介し、国際人としてのあるべき姿を考える。
13. 工学倫理の実践： 倫理的行動とは、倫理観の不一致、価値観の違い等の各種事例研究を通じて、工学倫理実践の行動指針を考える。
14. 科学技術と未来へのつけ： 「新規技術とリスク」、「将来の世代へのつけに対する考え方・対応」について事例研究を通じて考える。
15. まとめ-誇り高き技術者として-： これまでの講義を振り返り、まとめとして工学技術者のあるべき姿・理想の姿について学ぶ。対策等について事例研究を通じて学ぶ。

[キーワード] 工学者の使命、モラル、義務、規範、技術者倫理、

[教科書・参考書] 教科書 河村尚登著：『工学倫理—実例で学ぶ技術者の行動規範』，東京電機大学出版局 2011 年 4 月発売 ISBN 978-4-501-62640-2 定価 ¥2730 円【参考書】 1. 齋藤了文・坂下浩司編；『はじめての工学倫理』（昭和堂、2001） 2. 林 真理，宮澤健二，小野幸子他；『技術者の倫理』（コロナ社、2006） 3. 堀田源治；『工学倫理』（工学図書、2006）

[評価方法・基準] 毎回，講義の最後に小テストを実施し，その結果を踏まえて判定します。12 回以上出席しないと，単位認定できませんので注意してください。

[備考] 講師の都合により順番，内容に関して変更する場合があります。1 回目の授業の初めに行うガイダンスに必ず出席して下さい。

T1U012001

授業科目名：電磁波と光 科目英訳名：Seminar：Electromagnetic Wave and Light 担当教員：久世 宏明, 入江 仁士 単位数：2.0 単位 授業コード：T1U012001	開講時限等：2 年前期月曜 4 限 講義室：工 2 号棟 103 教室
---	--

科目区分

2014 年入学生：専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 90

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 光に関連する現象は数多いが、おおよそ「幾何光学」、「波動光学」、「電磁気学」のいずれかの観点から説明が可能である。本講義では、色々な現象をどのように科学的に把握し、表記するかを中心として、応用にも配慮して議論する。

[目的・目標] 光学に関する様々な現象についてその本質を理解し、情報画像についての基本的な知識を習得することを目標とする。

[授業計画・授業内容] 概ね、下記の内容により講義する。講義資料を指定するので、予習復習を行ってほしい。

1. 電磁波のスペクトル
2. 光波の記述
3. 電磁波としての光波
4. 屈折と反射
5. フレネル反射率
6. フレネル反射率 2
7. 幾何光学による結像
8. 幾何光学による結像 2
9. 光学系と収差
10. スペクトルと黒体放射
11. 光の干渉 1
12. 光の干渉 2
13. 光の干渉 3
14. 光の回折 1
15. 光の回折 2
16. 試験

[キーワード] 光線、光波、レンズ、結像、収差、光学機器、偏光、回折、干渉、波動、量子

[教科書・参考書] 「電磁波と光」講義資料（生協教科書売り場で販売）（参考書）光学入門 青木貞雄 著 ISBN 4-320-03419-8 共立出版 2002 など

[評価方法・基準] 出席・演習（レポートおよび小レポート）・試験

授業科目名：情報画像実験 I
 科目英訳名：Laboratory Work in Informatics and Imaging Systems I
 担当教員：各教員
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：2 年後期金曜 3,4,5 限
 授業コード：T1U014001, T1U014002, T1U014003
 講義室：工 1 号棟 3 階視聴覚教室, 工 情報画像学科
 実験室, 工 1 号棟 3 階視聴覚教室, 工 情報
 画像学科 実験室, 工 1 号棟 3 階視聴覚教室,
 工 情報画像学科 実験室

科目区分

2014 年入学生：専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 実験

[受講対象] 情報画像学科の学生

[授業概要] 30 人前後の班に分かれて 3 種類の実験を行う。各実験は 4 週に渡って行い、実施の順番は配属された班により異なる。

[目的・目標] 4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 30 人前後の班に分かれて以下の内容の実験を行う。各実験は 4 週に渡って行い、実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光学・像実験 (反射・屈折)
2. 光学・像実験 (回折・干渉)
3. 光学・像実験 (偏光)
4. 光学・像実験 (フレネル反射)
5. 光学・像実験 (まとめ)
6. 電子回路 (整流器の作成)
7. 電子回路 (電子回路の作成と測定)
8. 電子回路 (電子回路の作成と測定)
9. 電子回路 (論理ゲート)
10. 電子回路 (まとめ)
11. 音声信号処理 (AD 変換)
12. 音声信号処理 (フーリエ変換)
13. 音声信号処理 (音声の解析)
14. 音声信号処理 (音合成)
15. 音声信号処理 (まとめ)

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

授業科目名：確率と統計
 科目英訳名：Probability and Statistics
 担当教員：松葉 育雄
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：2 年後期火曜 2 限
 授業コード：T1U015001
 講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可;2 年次

[授業概要] 情報工学などに必要な確率および確率の基礎と応用を講義。

[目的・目標] 情報の数理構造を理解するためには、確率論の基礎を理解することが不可欠である。情報理論の基礎となる確率から確率過程へと理解を深め、さらに情報工学への応用など講述する。

[授業計画・授業内容] 教科書に従って、確率の基礎概念、不確定さを表す確率の表現方法、独立事象の概念、加法定理、乗法定理、事前確率、事後確率、ベイズの定理、確率変数の平均値、分散、相関関数、確率密度関数、分布関数、独立な確率変数の和の性質、中心極限定理、母関数と積率母関数、情報工学（探索アルゴリズムなど）での応用事例、不確定さと情報、統計を習得する。

1. 確率の基礎、順列と組合せ
2. 事象と確率
3. 加法定理と条件付確率
4. 分配則とベイズの定理
5. 事象の独立性とその応用
6. 2項分布とその応用
7. 近似理論、ガウス分布
8. 確率変数、確率密度、分布
9. 期待値、平均、分散
10. 統計（推定、検定）
11. 確率変数の関数とその応用
12. 母関数、積率母関数
13. 母関数の応用 1
14. 母関数の応用 2
15. 情報工学（探索アルゴリズム）への応用

[キーワード] 確率、加法定理、ベイズの定理、母関数、積率母関数、統計

[教科書・参考書] 教科書；松葉著、確率（シリーズ工学のための数学5）、朝倉書店

[評価方法・基準] 中間試験、期末試験、出席率によって評価

T1U016001

授業科目名：情報数学 II	
科目英訳名：Mathematics for Information Science II	
担当教員	：岸本 渡
単位数	：2.0 単位
開講時限等	：2 年後期火曜 4 限
授業コード	：T1U016001
講義室	：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生：専門選択必修 F20（T1U:情報画像学科）

[授業の方法] 講義

[受講対象] 情報画像学科 2 年生選択必修

[授業概要] 情報画像学科での専門科目を学ぶための基礎となる数学について演習、講義を行う。特に、計算機科学の基礎となる離散数学（言語、グラフ理論）に関する基礎的事項について例を示しながら講述する。

[目的・目標] 情報系で用いられる数学（言語、グラフ理論など）に関する基礎的事項の習得を目的とする。言語、オートマトン、グラフ理論、計算のモデルについての基礎的知識を得て、各専門分野で用いられる数学を必要に応じて独力で修得できるようになることを目標とする。

[授業計画・授業内容]

1. グラフの定義
2. 連結性
3. 木
4. 閉路
5. グラフの彩色問題
6. 平面グラフ
7. マッチング

8. グラフ理論のまとめ (第 8 回と第 9 回は入れ替わる可能性があります)
9. オートマトン
10. 言語とオートマトン
11. 非決定性有限オートマトン
12. 正規表現
13. チューリング機械
14. 計算量の概念
15. 総まとめ

[キーワード] 情報数学、離散数学、言語、オートマトン、グラフ理論、チューリング機械

[教科書・参考書] 教科書：IT Text 離散数学，松原他，オーム社。(予定)。

[評価方法・基準] 8 または 9 回の講義内で中間試験を、また、15 回の講義内で期末試験試験を実施する。2 回の試験と講義中に行う小テストにより評価する。中間試験、期末試験、小テストの評価の割合は 4 : 4 : 2 程度を目安とする。

[関連科目] 情報数学 I

[履修要件] 情報数学 I を履修していることが望ましい。

[備考] 2003 年度以前の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にはならない。また、2004 年度から 2007 年度の入学生が情報数学 I と情報数学 II の両方の科目を履修しても、卒業要件単位とすることができるのはどちらかのみであるので注意すること。

T1U017001

授業科目名： 計算機ハードウェア
 科目英訳名： Computer Hardware
 担当教員： (相京 隆)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： T1U017001

開講時限等： 2 年後期水曜 1 限
 講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 85 名

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可; 情報画像学科 2 年生選択必修科目

[授業概要] 計算機ハードウェアの中心となる VLSI の設計製造技術概要から始まり、VLSI の構成材料、構成素子と動作、半導体メモリ、アナログ回路、VLSI 設計方式、テスト容易化設計、計算機入出力機器などの計算機ハードウェアの概要を学ぶ。授業は、講義の他にできるだけ多くの演習を行う。

[目的・目標] VLSI が産業の米と言われて久しいが、今後の IT 時代のどんなハードウェア(システム)も VLSI (計算機ハードウェア) に大きく依存せざるをえない。従って、VLSI を中心にする計算機ハードウェアがどのような要素から成り立っていて、どのような動作をするかを理解することは、情報処理技術者の基本であり、本講義はそれを修得することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 当該の講義前日までは Web 上に置かれた講義資料をダウンロードして準備しておく。毎回の講義開始時に小テストを実施して出席確認を行う。

1. 講義の内容, 勉強方法, 計算機ハードウェア概要, VLSI の概要, 入出力機器概要
2. VLSI 設計製造技術概要
3. VLSI 構成材料と基本素子
4. MOS 論理回路, CMOS ゲート
5. パストランジスタとスレッショルド電圧
6. 半導体メモリ
7. プロセッサと高速化技術
8. 第 1 回 ~ 第 7 回講義内容の総まとめ
9. アナログ回路
10. VLSI 設計方式

11. VLSI の製造欠陥とテスト
12. VLSI のテスト容易化設計
13. 計算機ハードウェアの高信頼化
14. 計算機入出力機器, 外部記憶装置の分類, 磁気記憶装置, 光ディスク, 撮像デバイス, CRT ディスプレイ, 液晶ディスプレイ, RFID
15. 第 9 回 ~ 第 14 回講義内容の総まとめ

[キーワード] 計算機ハードウェア, VLSI, MOS トランジスタ, 半導体メモリ, アナログ回路, VLSI システム設計, テスト容易化設計, 計算機入出力機器

[教科書・参考書] 伊藤秀男「計算機ハードウェア」および「関連 URL に掲載する資料」
伊藤秀男, 倉田是「入門計算機システム」朝倉書店

[評価方法・基準] 毎回講義開始時に行う小テスト 30%, 第 8 回講義の中で行う中間試験 35%, 第 15 回講義の中で行う期末試験 35%の合計 100%で評価する。

[関連科目] 計算機システム入門

[履修要件] 「計算機システム入門」の講義, 特にその中の計算機回路 (論理関数, 組合せ回路, 順序回路) がある程度理解できていることが望ましい。

[備考] 11 回以上の出席を単位取得の前提条件とする。

T1U018001

授業科目名: 算法の設計と解析 科目英訳名: Design and Analysis of Algorithms 担当教員: 井宮 淳 単位数: 2.0 単位 授業コード: T1U018001	開講時限等: 2 年後期月曜 2 限 講義室: 工 2 号棟 103 教室
--	--

科目区分

2014 年入学生: 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 例題を通して算法設計の基礎を理解する

[目的・目標] 各種のアルゴリズムについて理解を含めるとともに, 計算量について講述する。同時に演習も併用して理解を深める。

[授業計画・授業内容] プログラムの基礎, アルゴリズムの計算量, 探索アルゴリズム, 整列アルゴリズム, 最適化アルゴリズム, 文字列アルゴリズム, グラフのアルゴリズム年次のはじめに年度の計画を配布する。以下の進行表は標準である。

1. 算法設計の基礎
2. 数値算法 1 行列積の計算
3. 数値算法 2 代数方程式の反復計算
4. 数値算法 3 多項式の計算
5. 組合せ算法 1 グラフ上の最適化問題
6. 組合せ算法 2 最小全域木
7. 組合せ算法 3 最短距離と近似アルゴリズム
8. 組合せ算法 4 カットとフロー
9. 計算機のモデル 1 RAM とアセンブラー
10. 計算機のモデル 2 TM と PD 計算機
11. 計算機のモデル 3 翻訳系
12. 基本算法 1 並べかえ
13. 基本算法 2 木の操作
14. 基本算法 3 離散信号、画像の表現と処理
15. まとめ

16. 試験

[評価方法・基準] 講義と演習による総合評価

T1U019001

授業科目名：プログラムの設計と実現 II 科目英訳名：Design and Implementation of Computer Programs II 担当教員：堀内 靖雄 単位数：2.0 単位 授業コード：T1U019001	開講時限等：2 年後期火曜 3 限 講義室：工 1 号棟 5 階 501 情報工学演習室 (1), 工 2 号棟 103 教室
--	--

科目区分

2014 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 96 (画像科学科との合計)

[授業概要] オブジェクト指向言語によるプログラミングの基礎を学ぶ。Java 言語のプログラミングを身に付けることにより、大規模なシステム設計の基本となるオブジェクト指向プログラミングの考え方を学ぶ。本講義を履修することにより、オブジェクトプログラミングの基礎、Java 言語のプログラミングの基礎について学ぶことが可能である。

[目的・目標] Java 言語の簡単なプログラムを記述できるようになることを学習目標とする。大規模なプログラム開発において、オブジェクト指向プログラミングの考え方を理解することは非常に重要である。本講義では Java 言語の基本として、(1) 変数 (2) 条件分岐 (3) 繰り返し (4) 配列について学習し、簡単な Java プログラムが書ける能力を身に付ける。その後、オブジェクト指向プログラミングの重要なポイントとなる (5) クラスの概念について学習し、オブジェクト、クラス、メソッド、継承などを学習し、オブジェクト指向プログラミングの考え方を体得する。その後、実践的な Java プログラミングのために (6) ファイル入出力 (7) GUI などについて学習し、実用的な Java プログラムを記述できるようにする。

[授業計画・授業内容] 本講義では C 言語と比較しながら、Java 言語の基礎を学ぶ。その後、クラス概念を学び、オブジェクトプログラミングの基本を身に付ける。最後に実用的な Java プログラミングに必要な技術を学ぶ。授業は前半は座学にて講義をし、後半は実際に計算機を使って、演習課題をプログラミングする。講義資料は WWW 上にて公開する。

1. Java 入門 (1 号棟 5 階 501 計算機室集合)
2. 変数
3. 条件分岐
4. 繰り返し
5. 配列
6. オブジェクト指向とクラス
7. カプセル化
8. コンストラクタ
9. クラスの継承
10. オーバーロードとオーバーライド
11. 例外処理 (1)
12. 例外処理 (2)
13. テキストファイル入出力
14. ウィンドウ、キーボード入力
15. まとめ

[キーワード] オブジェクト指向プログラミング, Java 言語, クラス

[教科書・参考書] 教科書はとくに指定しないが、Java 言語に関しては多数の書籍が出版されているので、各自、自分の能力や好みに応じて、参考書を用意すると良い。たとえば、川場隆著：わかりやすい Java, 秀和システム (入門編 / オブジェクト指向入門編 / オブジェクト指向編の三冊に分かれていて自習 / 復習に良い) 等。

[評価方法・基準] 毎回の講義時の演習 (60%) とレポート課題 (40%) により評価する。

[関連科目] 「情報画像リテラシー」「プログラムの設計と実現Ⅰ」「プログラム演習」によって C 言語やプログラミングの基礎を理解したことを前提とした授業を行う。その後の実験や卒研等において、JAVA 言語やオブジェクト指向プログラミングの考え方は有用となる。

[履修要件] プログラムの設計と実現Ⅰを履修していること。

[備考] 質問や意見等は講義中、講義後、オフィスアワー等で随時受け付ける。講義・演習は 1 号棟 5 階 501 計算機室にて行う。

T1U020001

授業科目名：色彩と画像

科目英訳名：Processing and Analysis of Color Image

担当教員：溝上 陽子

単位数：2.0 単位

開講時限等：2 年後期月曜 4 限

授業コード：T1U020001

講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 画像の獲得, 処理, 再現に必要な色彩学の基礎について, 人間の色覚情報処理メカニズムと関連させながら講義する。

[目的・目標] 近年の映像情報化社会への変革と情報技術の進展により, 色彩に関する知識が多くの分野で必要とされるようになった。つまりカラーデバイスの高機能化とネットワークの普及によって多様な色彩メディアが発生し, 誰でも手軽に大規模カラー画像を扱うようになってきた。本講では, このような情報化に即応した「色彩画像工学」を学ぶことを目的とする。まず人間の視覚系のしくみと色覚のメカニズムを知る。次に色彩の心理面の知識を得て, 色覚現象に対する理解を深める。また色を数量化するために, 表色系と測色の理論を修得する。さらにカラー画像の色再現の原理と方法について理解する。最近のカラーマネージメントについても言及する。修得した知識を活用して, 色を定量的に扱うようになることを目標とする。

[授業計画・授業内容]

1. 放射と光, そして色
2. 人間の視覚系の構造と機能
3. 明るさと色覚のメカニズム
4. カラーオーダーシステム
5. 等色実験と等色関数
6. CIE-XYZ 表色系
7. 測色演習 (1)
8. 均等色空間と色差
9. 測色演習 (2)
10. 色の識別
11. 色の見え
12. 画像システムと色再現の原理
13. 色再現の目標
14. 色再現の実際
15. 色の見えとカラーマネージメント

[キーワード] 色彩画像工学, 色覚, 測色, 表色, 色再現, カラー画像, 色彩心理

[教科書・参考書] 講義資料を HP にアップロードする。資料を参考に予習・復習を行うこと。参考書: 色彩工学の基礎, 池田光男著, 朝倉書店

[評価方法・基準] 出席状況 (25%), レポート (25%), 期末試験 (50%) を総合して評価する。59 点以下は不可。

[履修要件] 特になし。

授業科目名：画像解析システム論

〔千葉工大開放科目〕

科目英訳名：Theory of image analysis system

担当教員：眞鍋 佳嗣

単位数：2.0 単位

開講時限等：2 年後期水曜 4 限

授業コード：T1U021001

講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分

2014 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 名

[受講対象] 工学部他学科生 履修可

[授業概要] 画像入力装置の歴史や仕組み、カラー画像の計測方法などについて解説し、画像情報がどのようにコンピュータに入力されるか、またどのような特性があるかを実例を踏まえながら解説する。また、画像符号化（圧縮）技術に関して、画像の特性を理解しつつ、どのような理論をもとに実現されているかを説明する。

[目的・目標] 本講義の目的は、画像の入力、処理から出力、さらに人間が認知するまでの基礎となる知識を得ることである。そして得た知識をもとに、画像システムを一貫して考えられる能力を身に付ける。まず、前半では、計測技術やデジタル画像の表現についての知識を身につけ、説明できるようにする。また撮像デバイスの特性などを理解する。後半は、画像の圧縮技術についての知識を身につけ、利用できるようにする。

[授業計画・授業内容] 本講義では、マルチメディア情報処理における画像に関する基礎知識を身につける。講義では、毎回最後に問題を解くことによって、内容の理解を深める。また、講義の資料を web で配布するので、資料をもとに予習復習をすることが望ましい。

1. マルティメディア時代の画像再現
2. 計測技術
3. 色の表現
4. デジタル画像の形成
5. 画像入力装置の歴史
6. 撮像素子 (CCD) の構造と特性
7. カラー撮像技術
8. 前半のまとめ
9. 画像圧縮技術
10. 画像の統計的性質
11. 予測符号化
12. 画像の空間周波数特性と直交変換符号化
13. 情報量削減技術
14. 画像圧縮標準規格
15. 後半のまとめと今後の展開

[キーワード] センサ、画像入力、デジタル画像、画像符号化

[教科書・参考書] ホームページにて配布。パスワード等は最初の講義で連絡する。

[評価方法・基準] 中間試験および期末試験 (80%)、出席・小テスト (20%) で評価。なお、11 回以上の出席を単位取得の前提条件とする。

[関連科目] 色彩と画像、デジタル信号処理、視覚情報処理と関連がある。また、後半の画像圧縮は情報理論をもとにしているため、情報理論 (情報画像) や符号理論とも関連がある。

[履修要件] 情報画像概論でのデジタル信号や画像についての復習をしておくことが望ましい。

授業科目名：回路理論 II	
科目英訳名：Electric Circuit Theory II	
担当教員：関屋 大雄	
単位数：2.0 単位	開講時限等：2 年後期金曜 2 限
授業コード：T1U022001	講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 「回路理論 I」に引き続き、電気回路の基礎、さらにそこから派生する諸定理について講義する。毎週の講義には必ず演習の時間を設け、各自が手を動かすことによって理解を深められるよう進める。

[目的・目標] 社会に出て通用するだけの電気回路の基礎理論を習得する。回路の状態を常微分方程式でたてることができ、さらに常微分方程式を複数の方法で解くことができる。また、常微分方程式を解くために必須である、回路の初期値を求めることができる。

[授業計画・授業内容] 講義内容はその週に理解することを原則とする。演習問題を時間内に解けない場合、時間外学習が必要である。学習効率を上げるため、講義終了後オフィスアワーを設け、理解不足な点をすぐにフォローできる体制を整える。

1. イントロダクション 回路理論 I の内容と回路理論 II の位置づけ
2. 回路における諸定理 (1) 重ねの理, テブナンの定理
3. 回路における諸定理 (2) 相反定理, テレゲンの定理
4. 基本回路の性質 (1) 外力が存在する 1 階微分方程式で表される回路
5. 基本回路の性質 (2) 外力が存在する 2 階微分方程式で表される回路
6. ラプラス変換 (1) ラプラス変換の定義
7. ラプラス変換 (2) ラプラス変換の性質と応用
8. ラプラス変換 (3) ラプラス変換の計算演習
9. 結合回路素子の性質 (1) 相互インダクタンス
10. 結合回路素子の性質 (2) 従属電源
11. 複雑な回路の初期値
12. 回路のステップ応答
13. 状態変数 (1) 状態変数と状態方程式
14. 状態変数 (2) 状態微分方程式の解法-1
15. 状態変数 (3) 状態微分方程式の解法-2
16. 試験

[キーワード] 電気回路, 回路の諸定理, 状態微分方程式, ラプラス変換, 結合素子

[教科書・参考書] 教科書: 「電気回路ノート」 森真作著, コロナ社 (講義で用いる)。参考書: 「電気回路演習ノート」 同上 (講義中には用いないが, 本講義の演習書として最適である) その他, 多くの本が出版されているので, 自分で分かりやすそうなものを選ぶと良い。

[評価方法・基準] 毎週演習を行う。さらに試験を行い, 演習 1/3, 試験 2/3 の比重で評価する。

[関連科目] 回路理論 II, 微分方程式, フーリエ変換と画像, 情報画像工学実験 I

[履修要件] 特になし。

[備考] 本講義は電気回路の導入部分であり, 基礎的な内容に終始する。回路理論 II も受講することにより, 社会に出ても通用する電気回路の最低限の知識を網羅することができる。オフィスアワーは講義終了後終日、工学部 1 号棟 5 1 5 室。(事前連絡不要)

授業科目名：多変量解析	
科目英訳名：Multivariate Analysis	
担当教員：大澤 範高	
単位数：2.0 単位	開講時限等：2 年後期水曜 2 限
授業コード：T1U023001	講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2014 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 多くの変量を総合的に扱う解析手法である多変量解析の基礎として、回帰分析、主成分分析、判別分析、クラスター分析を中心に講義する。

[目的・目標] 基本的な多変量解析の意味や各分析手法の仕組みを理解し、それらの手法を正しく利用し、その結果を適切に解釈する能力の養成を目的とする。具体的な目標は (a) 下記の分析を理解できることと (b) 下記の分析を実際の問題へ適切に適用できるようになることである：(1) 回帰分析 (2) 主成分分析 (4) 判別分析 (3) クラスター分析 (5) ツールを利用した分析。

[授業計画・授業内容] 多変量解析の基礎を理解し、それが利用できるように、下記の予定で講義を行う。概ね各回の講義後に次回までを期限とする演習を課す。演習課題を解くことによって理解を深めると共に、生じた疑問は、質問等によって解消すること。なお、講義資料は、Web 上 (普遍教育センターの学習管理 Web システム「千葉大学 Moodle」) でアクセス可能にする。しっかりと予習・復習をして欲しい。

1. 序論、統計解析の基礎 1
2. 統計解析の基礎 2, 統計解析ツール (Excel)
3. 統計解析の基礎 3, 統計解析ツール (R)
4. 単回帰分析 (1)
5. 単回帰分析 (2)
6. 重回帰分析 (1)
7. 重回帰分析 (2)
8. 統計解析の基礎・回帰分析まとめ
9. 主成分分析 (1)
10. 主成分分析 (2)
11. 判別分析
12. クラスター分析 (1)
13. クラスター分析 (2)
14. 多変量解析の応用
15. 総まとめ

[キーワード] 多変量解析、回帰分析、主成分分析、判別分析、クラスター分析

[教科書・参考書] 教科書：中村永友著「多次元データ解析法」(共立出版)。参考書：荒木 孝治 編著「R と R コマンドーではじめる多変量解析」(日科技連)、東京大学教育学部統計学教室編「統計学入門」(東京大学出版会)、田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」(現代数学社)、金明哲「R によるデータサイエンス」(森北出版)、菅民郎「Excel で学ぶ多変量解析」(オーム社)。

[評価方法・基準] 中間試験、期末試験による総合試験成績 (80%) に演習やレポートなどの平常点 (20%) を加味して評価する。総合試験成績は 100 点満点換算で、60 点が本科目の目的・目標の最低限の達成に相当する内容と難易度で出題する。

[関連科目] 確率と統計 (p. 情報 17 T1U015001)

[履修要件] 共通専門基礎科目 統計学 B 1 (p. 情報?? G17133207) を履修しているか、同等の知識を有すること。

授業科目名： 画像有機化学	
科目英訳名： Organic Chemistry for Imaging	
担当教員： 宮川 信一	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 2 年前期月曜 2 限
授業コード： T1U024001	講義室： 工 5 号棟 204 教室

科目区分

2014 年入学生： 専門選択科目 F36 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可; 画像科学科 2 年次 (必修)

[授業概要] 色素をはじめ画像を形成する機能材料の多くは有機化合物である。そこで画像形成における化学的な原理・機構を理解するために必要な有機化学について論ずる。特に有機機能材料の設計や合成を行うための基礎となる有機化学における反応機構について講義する。また、実際に画像形成に応用されている化合物等についても、どのような反応を利用しているのかを解説していく。

[目的・目標] [一般目標] 有機機能材料の機能性発現のメカニズム、特に分子の化学的な反応に関して理解出来る様になる。また材料の設計や合成のための基礎的な化学反応、化合物や中間体の安定性や反応性を原理的に解する様になる。[到達目標] (知識・理解) 基礎的な有機化学の反応を官能基毎に理解する。光機能性材料や像形成物質等の画像形成における化合物の反応を理解する。(評価：小テスト、期末テストの一部) (思考・判断) 初めて見る化合物や反応でも、習い覚えた基礎知識から合成法や反応性を推測出来る様になる。(評価：主に期末テスト) (関心・意欲) 身の回りの化学物質、特に画像を形成している材料に興味を持つ様になる。(直接的な評価はしないが質問票等で判断可能) (態度) 上記で興味をひいた内容に関して自発的に調査、考察できる様になる(評価：主にレポート) (技能・表現) 画像形成材料に関して、そのメカニズムや素反応を総括的かつ論理的にまとめることが出来る(評価：主にレポート) また、本授業での知識や反応に対する考え方を他の授業(例えば、画像科学実験 II の色素合成の実験や画像科学実験 IV の分子モデリングの実験等) に活かせる様になる。(後者は直接的な評価はしない)

[授業計画・授業内容]

1. 授業方針等のガイダンス。画像形成と化学、特に有機化学との関わりについて解説。また、基礎化学 B の理解度判断のための小テストを行い、基礎化学 B の内容についても復習する。
2. 有機化合物の立体構造と異性体
3. 電子の軌道と分子の構造
4. 化学結合と反応
5. 結合の解裂と生成・反応中間体
6. 芳香族性・共鳴
7. 芳香族化合物の性質と反応
8. 画像と色素
9. 分子の構造と光吸収
10. カルボニル化合物の性質と反応 (1)
11. カルボニル化合物の性質と反応 (2)
12. カルボニル化合物の性質と反応 (3)
13. アミンの性質と反応
14. 画像と高分子 (1)
15. 画像と高分子 (2)
16. 期末試験

[キーワード] 有機化学, 有機化学反応論, 画像, 画像化学

[教科書・参考書] 特に教科書は指定しない。必要に応じて独自資料を授業中あるいは Moodle 上で配布する。また授業進度に応じて復習用の問題・課題を Moodle 上で公開する。参考書としては、普遍教育の基礎化学 B で使用した「はじめて学ぶ 大学の有機化学」(化学同人) が予習用として利用出来る。また、もっと深く学習するために(復習用)は、「モリソン・ポイド有機化学」(東京化学同人)をお勧めする。「有機化学問題の解き方 - モリソン・ポイドの教科書に沿って」(東京化学同人)は、その後の自己の学習評価に利用出来ると思われる。

[評価方法・基準] 複数回の小テストの結果 (40%)、レポート (10%)、期末試験の結果 (50%) で総合的に評価する。

[関連科目] 基礎化学 B, 画像科学実験 II, 画像科学実験 IV

[履修要件] 原則として基礎化学 B(画像科学科) あるいはそれに類する科目 (他学科) を履修していることが望ましい。

[備考] 出席は独自の出席票を用いて毎回チェックする。規定の出席日数に達しなかった者は評価しないことがあるので注意すること。病欠等は考慮するので申し出ること。小テストの実施日・実施回数は決まっていない。少なくとも 4 回は行う予定である。実際の進度に応じて実施する。実施日の 1 回前の講義でその旨を連絡するので聞き漏らさない様に。レポート課題についても、授業中に発表するので聞き漏らさない様に。その他、Moodle にて資料や復習教材を配布したり、web 上での演習やテストも行うので Moodle への登録は必須。

T1U025001

授業科目名： 情報画像実験 II 科目英訳名： Laboratory Work in Informatics and Imaging Systems II 担当教員： 各教員 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1U025001, T1U025002, T1U025003	開講時限等： 3 年前期水曜 3,4,5 限 講義室： 工 情報画像学科 実験室
--	---

科目区分

2013 年入学生： 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 実験

[授業概要] 3 種類の実験課題を 3 班に分かれて 5 週ずつ行う。実施の順番は、配属された班により異なる。

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、学生が与えられた実験をこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力を養うことを目的とする。具体的には、実験前に予習を行い、注意深く実験をして考察を行い、レポートとして期限までにまとめあげて達成目標とする。

[授業計画・授業内容] 30 人程度の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 論理回路 1
2. 論理回路 2
3. 論理回路 3
4. 論理回路 4
5. 論理回路 5
6. 画像処理 1
7. 画像処理 2
8. 画像処理 3
9. 画像処理 4
10. 画像処理 5
11. ネットワーク 1
12. ネットワーク 2
13. ネットワーク 3
14. ネットワーク 4
15. ネットワーク 5

[キーワード] 実験, 論理回路, 画像処理, ネットワーク

[教科書・参考書] 4 月のガイダンス時に配布される実験テキスト

[評価方法・基準] 全ての実験に出席し、期限までにレポートを提出することが単位を習得するための前提条件である。
1 つの課題でも期限までにレポート提出できない場合には、単位は認められない。評価は、実験態度 (20%) とレポート内容 (80%) によって行う。

[関連科目] 情報画像実験 I、情報画像実験 III

[履修要件] 2 年次終了時まで、4 セメスタまでに設置された科目を 58 単位以上習得していること。

授業科目名：情報画像基礎英語	
科目英訳名：Introductory English for Information and Image Science	
担当教員：(太田 真智子)	
単位数：2.0 単位	開講時限等：3 年前期火曜 4 限
授業コード：T1U026001	講義室：工 17 号棟 212 教室

科目区分

2013 年入学生：専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 必修科目として履修する学生を優先して受け入れる。

[受講対象] 必修科目として履修する学生のみを受け入れる。学籍番号の末尾奇数は 4 限、偶数は 5 限に受講すること(履修登録番号に誤りのないよう注意すること)。

[授業概要] この授業では、専門分野の研究に必要な英語力は三層構造であると規定する。具体的には、基盤階層「普遍教育までを通じて習得した英文法および基本語彙の運用能力」、中間階層「専門を問わず、学術の場では共通して重要な英文法および語彙の運用能力」、および最上位階層「情報画像学分野に特化した語彙の運用能力」から成るとする。開講時に、受講生自身が基盤階層の充実度を検証する機会を設ける。授業は次の 2 つを中心に進める。・必須テキストを用いて学術分野の重要動詞を解説し、中間階層充実の必要性を理解させるとともに、具体的学習方法を提示する。・公開されている技術関連文書を教材として、専門用語を豊富に含む英文を読み解く訓練をする。

[目的・目標] 最終目的：英語論文の良き書き手となることを目指してこの先も続く自律的英語学習の揺るぎない基盤を築くこと。達成目標：基盤階層および中間階層の充実なくして専門英語力は充実し得ないことを理解したうえで、1. 教材と同等レベルの英文を読んで「幹」を取り出せる。注：「幹取り」については授業で詳説する。2. 教材と同等レベルの英文を読んで一般的記述と個別具体的記述を識別できる。3. 完成度の低い英文を既習事項に基づいて修正できる。4. 学術共通語彙および専門用語の習得には語源の知識が役立つことを理解する。5. 学術共通語彙および専門用語のうち指定の動詞と名詞を身につける。6. 冠詞と数を気にしてから名詞を読む経験を重ねる。

[授業計画・授業内容] 初回に、受講生自身が基盤階層の充実度を検証する機会を設ける。その後は原則として各回を前半と後半に分けて進行する。前半は、必須テキスト『理系英語で使える 強力動詞 60』を出発点として中間階層づくりにあてる。後半は、講師選定実例英文を用い、テクニカルライティングの解説も加え、最上位階層づくりにあてる。最終回は、難易度の高い実例英文のみを取り上げ、受講生各自が成長を実感し課題を自覚する機会とする。中間試験および期末試験にあたる大きな試験のみを行う回は設けない。授業の進行に応じて課す復習レポートおよび小テストが、受講生の実力発揮の場である。復習レポートは、お互いが学びの力となることを実感しながら力を養うことを期し、受講生全員の閲覧に供する。

1. 基盤階層充実度チェック：【ふだん使用している辞書および必須テキストを持参のこと】
2. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
3. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
4. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
5. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
6. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
7. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
8. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
9. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
10. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
11. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
12. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
13. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
14. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
15. 情報画像応用英語ダイジェスト

[キーワード] 自律的学習、autonomous learning、学術共通語彙、general academic vocabulary、専門用語、technical terms、テクニカルライティング、technical writing

[教科書・参考書] 『理系英語で使える 強力動詞 60』 ISBN 978-4-254-10266-6 C3040 (朝倉書店) は、千葉大学ブックセンターにて購入できる。その他授業に必要な資料は原則として Moodle 経由で提供する。予習、復習、および発展学習に役立つ資料も Moodle にて紹介する。

[評価方法・基準] 復習レポートおよび小テスト

[関連科目] 本科目担当講師による，中間階層の充実に特化した科目：英語 II 科学英語 3，英語 II 科学英語 7，英語 II 科学英語 8

[履修要件] 必修科目として履修する学生であること

[備考] 【提出期限を過ぎて課題および答案を正規の配点基準摘要対象として提出するには、関係する授業の公欠届が必要である】

T1U026002

授業科目名：情報画像基礎英語

科目英訳名：Introductory English for Information and Image Science

担当教員：(太田 真智子)

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年前期火曜 5 限

授業コード：T1U026002

講義室：工 17 号棟 212 教室

科目区分

2013 年入学生：専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 必修科目として履修する学生を優先して受け入れる。

[受講対象] 必修科目として履修する学生のみを受け入れる。学籍番号の末尾奇数は 4 限、偶数は 5 限に受講すること（履修登録番号に誤りのないよう注意すること）。

[授業概要] この授業では、専門分野の研究に必要な英語力は三層構造であると規定する。具体的には、基盤階層「普遍教育までを通じて習得した英文法および基本語彙の運用能力」、中間階層「専門を問わず、学術の場では共通して重要な英文法および語彙の運用能力」、および最上位階層「情報画像学分野に特化した語彙の運用能力」から成るとする。開講時に、受講生自身が基盤階層の充実度を検証する機会を設ける。授業は次の 2 つを中心に進める。・必須テキストを用いて学術分野の重要動詞を解説し、中間階層充実の必要性を理解させるとともに、具体的学習方法を提示する。・公開されている技術関連文書を教材として、専門用語を豊富に含む英文を読み解く訓練をする。

[目的・目標] 最終目的：英語論文の良き書き手となることを目指してこの先も続く自律的英語学習の揺るぎない基盤を築くこと。達成目標：基盤階層および中間階層の充実なくして専門英語力は充実し得ないことを理解したうえで、1. 教材と同等レベルの英文を読んで「幹」を取り出せる。注：「幹取り」については授業で詳説する。2. 教材と同等レベルの英文を読んで一般的記述と個別具体的記述を識別できる。3. 完成度の低い英文を既習事項に基づいて修正できる。4. 学術共通語彙および専門用語の習得には語源の知識が役立つことを理解する。5. 学術共通語彙および専門用語のうち指定の動詞と名詞を身につける。6. 冠詞と数を気にしてから名詞を読む経験を重ねる。

[授業計画・授業内容] 初回に、受講生自身が基盤階層の充実度を検証する機会を設ける。その後は原則として各回を前半と後半に分けて進行する。前半は、必須テキスト『理系英語で使える 強力動詞 60』を出発点として中間階層づくりにあてる。後半は、講師選定実例英文を用い、テクニカルライティングの解説も加え、最上位階層づくりにあてる。最終回は、難易度の高い実例英文のみを取り上げ、受講生各自が成長を実感し課題を自覚する機会とする。中間試験および期末試験にあたる大きな試験のみを行う回は設けない。授業の進行に応じて課す復習レポートおよび小テストが、受講生の実力発揮の場である。復習レポートは、お互いが学びの力となることを実感しながら力を養うことを期し、受講生全員の閲覧に供する。

1. 基盤階層充実度チェック：【ふだん使用している辞書および必須テキストを持参のこと】
2. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
3. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
4. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
5. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
6. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
7. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
8. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
9. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
10. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
11. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
12. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習
13. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習

14. 前半：必須テキスト重要事項講義・演習、後半：実例英文講義・演習

15. 情報画像応用英語ダイジェスト

[キーワード] 自律的学習、autonomous learning、学術共通語彙、general academic vocabulary、専門用語、technical terms、テクニカルライティング、technical writing

[教科書・参考書] 『理系英語で使える 強力動詞 60』 ISBN 978-4-254-10266-6 C3040 (朝倉書店) は、千葉大学ブックセンターにて購入できる。その他授業に必要な資料は原則として Moodle 経由で提供する。予習、復習、および発展学習に役立つ資料も Moodle にて紹介する。

[評価方法・基準] 復習レポートおよび小テスト

[関連科目] 本科目担当講師による、中間階層の充実に特化した科目：英語 II 科学英語 3，英語 II 科学英語 7，英語 II 科学英語 8

[履修要件] 必修科目として履修する学生であること

[備考] 【提出期限を過ぎて課題および答案を正規の配点基準摘要対象として提出するには、関係する授業の公欠届が必要である】

T1U027001

授業科目名：情報理論（情報画像）

科目英訳名：Information Theory

担当教員：須鎗 弘樹

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年前期月曜 3 限

授業コード：T1U027001

講義室：工 15 号棟 110 教室

科目区分

2013 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 140 名

[受講対象] 科目等履修生 履修可

[授業概要] 情報伝達過程における効率性（データ圧縮）と信頼性（誤り訂正）の限界を定量的に与える、シャノン（創始者の名前）の情報理論について講義する。第 4 セメスターまでに習った情報数学・確率論が情報科学・情報工学でどのように役立つのかがわかるように講義する。

[目的・目標] 情報源符号化（データ圧縮）と通信路符号化（誤り訂正符号化）を理解することを目的とする。具体的には、受講生が次の事項を関連・系統づけて説明できることを目標にする。情報源符号化（データ圧縮）と通信路符号化（誤り訂正符号化）、様々な情報量、情報源と通信路のモデル、情報源符号化定理、具体的な情報源符号化法、通信路符号化定理、符号の誤り訂正能力、簡単な誤り検出訂正符号（線形符号、ハミング符号）。観点別の目標は、次の通りである。?知識・理解：情報源符号化と通信路符号化の原理について理解できる。?思考・判断：限界となるエントロピー・通信路容量の大まかな見積もりができる。?関心・意欲：新しい情報源符号化と通信路符号化について、一定の理解できる。?態度：限られた時間内に限界の見積もりを計算できる。?技能・表現：情報源符号化と通信路符号化に関してわかり易く他者に説明できる。

[授業計画・授業内容] 情報数学・確率論の基礎を修得した後に、情報科学・情報工学の理論的基礎である情報理論について、下記の予定で講義および演習を行う。授業で用いるスライド原稿(pdf)は、授業前日に、下記の授業のホームページからダウンロード・印刷して、授業に持参することが望ましい。教科書とスライド原稿の両方を使って授業を進めるので、それらで予習を十分行っておくことが望まれる。授業中に話したことは、授業に持参したスライド原稿に適時記入していくと良いノートができるはずである。また、理解を確かめる小問を用意しており、スライド原稿に予め記載している。

1. 情報理論の歴史的背景・学問的位置づけ
2. 情報理論で習う情報源符号化と通信路符号化の通信における意味とそれらの具体例
3. 情報源符号化を定量的に表すための、エントロピーなどの基本的な情報量の導入
4. 情報源符号化（データ圧縮）を実現する符号化に要請される 3 つの条件とデータ圧縮の限界を示す情報源符号化定理
5. 情報源符号化（データ圧縮）の基本的かつ具体的な符号化法であるシャノン・ファノ符号化とハフマン符号化
6. 情報源符号化（データ圧縮）のより実的な符号化法であるランレングス符号化とユニバーサル符号化
7. 情報源符号化のまとめ

8. 通信路符号化（誤り訂正符号化）のための、通信路のモデル・誤りの種類・誤り検出訂正のための冗長性の利用の導入
9. 通信路符号化（誤り訂正符号化）の定量化のための、符号空間・誤り率・通信路モデルの数学的表現の導入 1
10. 通信路符号化（誤り訂正符号化）の定量化のための、符号空間・誤り率・通信路モデルの数学的表現の導入 2
11. 通信路符号化（誤り訂正符号化）の定量化のための、条件付エントロピー・相互情報量・通信路容量などの情報量の導入 1
12. 通信路符号化（誤り訂正符号化）の定量化のための、条件付エントロピー・相互情報量・通信路容量などの情報量の導入 2
13. 通信路符号化（誤り訂正符号化）の基本的かつ具体的な符号化法（パリティ検査符号・ハミング符号）
14. ハミング符号の誤り検出・訂正方法・符号化と復号化の論理回路
15. 通信路符号化のまとめ

[キーワード] エントロピー、情報源符号化、データ圧縮、通信路符号化、誤り訂正符号

[教科書・参考書] マルチメディア時代の情報理論（コロナ社）

[評価方法・基準] 原則として、出席回数 11 回以上の前提条件のもと、中間試験と期末試験で成績を評価する。前半 7 回の講義内で中間試験を、後半 8 回の講義内で期末試験を実施し、その平均が最終的な評価点になる。

[関連科目] 符号理論 (p. 情報 43 T1U047001)

[履修要件] 確率論の基礎を修得していることが望ましい。

T1U028001

授業科目名： 数値計算の理論と実際

科目英訳名： Numerical Computation Theory and Applications

担当教員： (河村 哲也)

単位数： 2.0 単位

授業コード： T1U028001

開講時限等： 3 年前期集中 / 3 年前期土曜 4,5 限

講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2013 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 数値計算法の初歩をやさしく講義する。また簡単な実習も行う。

[目的・目標] 科学技術計算に必須な数値計算法の基礎理論について講述する。また実際にプログラムを組んで実行し理論ばかりではなく応用できるようにする。なお、特に工学上重要な微分方程式の数値解法に重点をおく。

[授業計画・授業内容]

1. 数値計算法序論
2. 非線形方程式の解法その 1
3. 非線形方程式の解法その 2
4. 連立一次方程式の解法その 1
5. 連立一次方程式の解法その 2
6. 関数の離散補間その 1
7. 関数の離散補間その 2
8. 数値微分と数値積分
9. 常微分方程式の解法その 1
10. 常微分方程式の解法その 2
11. 差分法による偏微分方程式の解法その 1
12. 差分法による偏微分方程式の解法その 2
13. 有限要素法
14. 境界要素法
15. 試験

[教科書・参考書] 参考書として数値計算の理論と実際、河村哲也著、科学技術出版（2000年）

[評価方法・基準] 期末試験とレポートで評価する

[関連科目] 大学 1, 2 年の線形代数と微積分学

[備考] 平成 27 年度の日程は 4/18, 25 5/9, 16, 23, 30, 6/6, 13 のいずれも 4, 5 時限を予定しています。本日程は変更する可能性があります。その場合事前に講義中にアナウンスがあります。

T1U029001

授業科目名： 計算機アーキテクチャ 科目英訳名： Computer Architecture 担当教員： 北神 正人 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1U029001	(学部・千葉工大開放科目) 開講時限等： 3 年前期金曜 3 限 講義室： 工 2 号棟 103 教室
---	---

科目区分

2013 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 名

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 論理回路から計算機システムを構築する手法について講義する

[目的・目標] 計算機を実際に構成する際に必要となる基本的知識を理解し、さらに計算機を高性能化するために用いられる技術について知識を深めることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 数の表現とメモリ
2. 演算回路
3. 命令の実行
4. 命令セット
5. アドレッシングとサブルーチン
6. パイプライン処理
7. 中間試験
8. キャッシュ
9. 仮想記憶
10. 命令レベル並列処理
11. アウトオブオーダー処理
12. 入出力装置と周辺装置 1
13. 入出力装置と周辺装置 2
14. 並列計算機
15. 期末試験

[キーワード] 計算機アーキテクチャ、命令セット、プロセッサ

[教科書・参考書] 坂井修一著「コンピュータアーキテクチャ (電子情報通信レクチャーシリーズ)」、電子情報通信学会編、コロナ社、ISBN:4339018430

[評価方法・基準] 毎回の小テストと中間試験、期末試験で評価する

T1U030001

授業科目名： 情報通信ネットワーク 科目英訳名： Information and Communication Network 担当教員： 関屋 大雄 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1U030001	開講時限等： 3 年前期火曜 1 限 講義室： 工 2 号棟 103 教室
---	--

科目区分

2013 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 120

[受講対象] 自学部他学科生 履修可;3 年次, 4 年次

[授業概要] 各種通信ネットワークとそれを活用するための基礎となる分散処理、インターネット、プロトコルの技術が、実際にどのように使われているかを学習する。また、電話網依存からインターネット、無線ネットワークをベースとするユビキタス情報社会発展への大きな流れの中で、IT の基盤となる情報通信ネットワークとこれらの技術が、社会とどのように関わるかについても理解する。

[目的・目標] インターネットをベースとする情報通信ネットワークが、今後も社会のインフラストラクチャとして、組織・企業生活、個人生活の両面において極めて重要な役割を果たしていくことを理解し、IT のコアとなるシステム技術および将来のユビキタスシステム技術を修得することを目標とする。

[授業計画・授業内容] 情報通信ネットワークは、今や音声通信の電話網にとって代わり、パケットデータ通信を基本とするインターネットに代表されるコンピュータネットワークが主流になっている。本講義では、コンピュータネットワークの基礎となる分散処理の基本原則、主要な通信ネットワークの動作原理を学習した後、インターネットの構造、主要なプロトコル、さらにインターネットをベースに近年急速に技術開発が進展しているマルチメディア通信、P2P コンピューティング、コンテンツ配信、セキュリティ、無線通信によるモバイル・ユビキタスネットワークの基本方式について習得し、将来の情報通信ネットワークが生出すユビキタス情報社会への発展方向を理解する。第 1 ~ 3 回で情報画像工学実験 II 「ネットワーク」に関連する内容を講義し、実験と連動させることにより理解を深める。第 4 ~ 6 回で通信における情報の取り扱いについて学ぶ。第 7 回以降で IT のコアとなるシステム技術および将来のユビキタスシステム技術を解説する。

1. TCP/IP (1) - 通信プロトコルの意味とその階層・体系、これまでの変遷、OSI7 層モデル、 - 経路制御の各種アルゴリズム (RIP/Bellman-Ford, OSPF/Dijkstra) 、マルチキャスト制御のアルゴリズム (PIM-SM, SSM) とプロトコル、モバイル IP/NEMO、IPv6)
2. TCP/IP (2) - TCP の動作原理 (コネクション制御、フロー制御、輻輳制御、誤り制御、再送制御) 、UDP によるマルチメディア通信、TCP のバリエーション
3. TCP/IP (3) - ARP, ICMP, DHCP, NAT など
4. PHY (1) - 通信の基本原則 (サンプリング定理、量子化) - 主な変調方式、周波数と通信特性
5. PHY (2) - 多重アクセス方式 (FDMA, TDMA)
6. PHY (3) - 多重アクセス方式 (CDMA, OFDM) - 光通信
7. 情報通信ネットワーク概論 - 情報通信ネットワークの変遷と現在 (回線交換からパケット交換へ、電話網からインターネットへ、有線からユビキタス無線へ、集中処理から分散処理へ)
8. 分散処理アーキテクチャ - 一極集中型から階層分散のクライアント・サーバ型、対等分散の P2P 型 (hybrid P2P, pure P2P) への変遷と各形態の特徴、比較 - ネットワーク仮想化とクラウドコンピューティング
9. 分散アルゴリズム - 同期、デッドロック、リーダ選出問題、データベースを介した分散トランザクション、重複データ同時更新制御、ACID (原子性、一貫性、独立性、持続性) などの各種分散アルゴリズム
10. インターネットにおけるマルチメディア通信 - 動画・音声の符号化方式・通信とマルチメディア QoS 制御 (Intserv/RSVP, Diffserv, RTP/RTCP, RTSP, SIP, MPLS) 、トラフィック制御 (待ち行列理論の基礎)
11. ネットワークセキュリティ - 暗号・認証アルゴリズム (DES/AES, RSA) 、ファイアウォール、不正侵入検知・防御 (IDS/IPS) 、ウィルス対策、ネットワークセキュリティプロトコル (IPsec, SSL/TLS, S/MIME)
12. ネットワーク応用システム - P2P コンテンツ配信ネットワーク、コンテンツキャッシング、Web サービス、クラウドコンピューティング
13. ユビキタスネットワークの種類と動作原理 - ユビキタスシステムアーキテクチャ、標準化動向 - 短距離無線 (RF-ID, DSRC, NFC など) 、無線 PAN (Bluetooth, UWB, ZigBee, ミリ波通信) 、無線 LAN (IEEE802.11/b/a/g/n) 、無線 MAN (IEEE802.16/16e)
14. ユビキタスネットワークの応用と今後の発展 - モバイルアドホックネットワーク、センサネットワークと省電力通信 (スマートグリッド) 、ホーム・情報家電ネットワーク、NGN (次世代ネットワーク) 、IPTV と通信放送融合

[キーワード] インターネット、ネットワークアーキテクチャ、ユビキタスシステム、分散処理、マルチメディア通信、プロトコル、コンピュータネットワーク

[教科書・参考書] 講義資料は Web に掲載。参考書: 「インターネットプロトコル」(オーム社) 「無線通信技術大全」(リックテレコム) 「マスタリング TCP/IP 入門編・応用編」(オーム社) 「情報家電ネットワークと通信放送融合」(電気学会)

[評価方法・基準] 試験 (48%)、レポート (48%)、出席 (4%) で評価する。

[関連科目] 情報画像工学実験 II、応用数学、オペレーティングシステム、データベース、マルチメディア情報処理、デジタル信号処理

[備考] 講義日の午後をオフィスアワーはとする。事前に関屋まで連絡のこと。

T1U031001

授業科目名：プログラム言語の構造 科目英訳名：Computer Programming Languages 担当教員：今泉 貴史 単位数：2.0 単位 授業コード：T1U031001	[学部・千葉工大開放科目] 開講時限等：3 年前期木曜 3 限 講義室：工 17 号棟 113 教室
---	--

科目区分

2013 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 80

[授業概要] 本講義ではコンパイラについて講義する。字句解析、構文解析からコード生成にいたるまで、コンパイラ全域にわたりとり上げる。

[目的・目標] コンパイラがプログラム言語を解析・コンパイルする過程を理解し、設定ファイルの読み込みなどに応用できることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. コンパイラの概要
3. 文法と言語
4. 字句解析
5. 下向き構文解析
6. 上向き構文解析
7. 中間試験
8. 意味解析
9. 誤りの処理
10. 実行記憶域と仮想マシン
11. コード生成
12. 最適化 (1)
13. 最適化 (2)
14. 各種プログラミング言語
15. 期末テスト

[キーワード] 文脈自由言語，コンパイラ，構文解析

[教科書・参考書] 教科書：中田育男著，コンパイラの構成と最適化，朝倉書店，参考書：中田育男著，コンパイラ，オーム社

[評価方法・基準] 授業中に行う課題、宿題、および、中間テストと期末テストの成績によって評価する。

T1U032001

授業科目名：パターン認識基礎 科目英訳名：Pattern Recognition 担当教員：津村 徳道 単位数：2.0 単位 授業コード：T1U032001	[学部・千葉工大開放科目] 開講時限等：3 年前期金曜 2 限 講義室：工 2 号棟 103 教室
--	---

科目区分

2013 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 情報工学の幅広い分野で必要とされ、すでに多くの技法が実用化されているパターン認識の基礎理論を解説する。

[目的・目標] パターン認識の過程と特徴抽出の大切さを学ぶ。パターン認識に関する数学的な手順を含めた基礎知識を習得する。統計的パターン認識の考え方と手法を理解する。学習の概念と学習アルゴリズムを学ぶ。特徴空間、特徴分析、特徴変換など特徴の取り扱い方を学ぶ。パターン認識の実際問題を理解し、応用力を身につける。

[授業計画・授業内容]

1. パターン認識とは
2. 特徴ベクトルと特徴空間 (1)
3. 特徴ベクトルと特徴空間 (2)
4. 学習と識別関数 (1)
5. 学習と識別関数 (2)
6. 学習と識別関数 (3)
7. ニューラルネットワークとの関係
8. 識別部の設計 (1)
9. 識別部の設計 (2)
10. 特徴の評価とベイズ誤り確率 (1)
11. 特徴の評価とベイズ誤り確率 (2)
12. 特徴の評価とベイズ誤り確率 (3)
13. 特徴空間の変換
14. 部分空間法
15. まとめと今後の展開, 期末テスト

[キーワード] 統計的パターン認識, ベイズ識別, 学習, ニューラルネットワーク

[教科書・参考書] 要購入: 教科書: わかりやすいパターン認識, オーム社, 2800円, ISBN4-274-1349-1

[評価方法・基準] 出席状況, 当日レポート, 当日外レポートなどを総合して評価する

T1U033001

授業科目名: ヒューマンインタフェース

科目英訳名: Human Interface

担当教員: 黒岩 眞吾

単位数: 2.0 単位

授業コード: T1U033001

開講時限等: 3 年前期火曜 2 限

講義室: 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2013 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科), 専門選択科目 F36 (T1R:電気電子工学科)

[授業の方法] 講義・発表

[受入人数] 40 名程度を想定

[授業概要] 本科目では講義に加え、受講者によるプレゼンテーション及び議論等の受講者参加型の授業を行う。はじめに、ヒューマンインタフェースの基本的な考え方を講義する。受講者はその考え方にに基づき、身近な環境の中から「使いやすさ/使いにくさ」の例を探しレポートを作成すると共にプレゼンテーションを行う。発表に対しては講師及び受講者同士での議論を実施し相互評価を行う。これらにより、受講者はヒューマンインタフェースに対する感覚を身に着けると共にプレゼンテーションの基礎を学ぶ。その後、ヒューマンインタフェースに関する基礎技術および実践技術を習得してもらうために、下記の「目的・目標」に示す4つのテーマについて講義を行う。最後に、受講者は、はじめに着目した身近な例に対するユーザビリティ向上のための改善案の提案をレポートととして作成すると共に講義で習得したデザイン原理に基づいたプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションに対しては受講者間で相互評価を行うと共に、各プレゼンテーションの中の個別事例を通じ下記の「目的・目標」で示す4つのテーマについて具体的な議論をする。

[目的・目標] ユーザビリティの高いマン・マシンインタフェースを設計できる能力を習得することを目標に、(1) プレゼンテーション技法、(2) ヒューマンインタフェースの設計原則、(3) ユーザ中心設計としてのヒューマンインタフェースデザイン法、(4) ユーザ調査法およびユーザビリティ評価法、を学習する。

[授業計画・授業内容]

1. ヒューマン・インタフェースとは
2. プレゼンテーション技法 1: プレゼンテーションの基本的な考え方
3. プレゼンテーション技法 2: プレゼンテーションテクニック

4. 第 1 回レポート発表「私が見つけた使いやすさ / 使い難さの例 - 身の周りから」(1)
5. 第 1 回レポート発表「私が見つけた使いやすさ / 使い難さの例 - 身の周りから」(2)
6. 第 1 回レポート発表「私が見つけた使いやすさ / 使い難さの例 - 身の周りから」(3)
7. ヒューマンインタフェースの設計原則
8. ヒューマンインタフェースデザイン：インタラクションの可視化とアフォーダンス
9. ヒューマンインタフェースデザイン：ヒューマンエラーと対策(1)
10. ヒューマンインタフェースデザイン：ヒューマンエラーと対策(2)
11. ヒューマンインタフェースデザイン：デザイン原理とデザインにおけるトレードオフ
12. ユーザ調査法、ユーザビリティ評価法
13. ヒューマンインタフェース論総括(期末試験)
14. 第 2 回レポート発表「ユーザビリティ向上のための提案」(1)
15. 第 2 回レポート発表「ユーザビリティ向上のための提案」(2)
16. 第 2 回レポート発表「ユーザビリティ向上のための提案」(3)

[キーワード] プレゼンテーション, ユーザビリティ

[教科書・参考書] 教科書は指定しない。参考書：ドナルド・A. ノーマン「誰のためのデザイン？」、「未来のモノのデザイン ロボット時代のデザイン原論」(新曜社) 加藤隆「認知インタフェース」(オーム社) 樽本哲也「ユーザビリティエンジニアリング」(オーム社) ヤコブ ニールセン「ユーザビリティエンジニアリング原論」(東京電機大学出版局)

[評価方法・基準] レポート、授業内での小テスト(授業の最後に理解度を測るための小テストを毎回行う) などの平常点、プレゼンテーション(レポートを含む) および期末試験の成績を総合して行う。平常点、プレゼンテーション、期末試験の比率は 1 : 4.5 : 4.5 を目安とする。

[備考] PowerPoint 等プレゼンテーション用ソフトを利用したプレゼンテーションを実施してもらいます。11 回以上の出席が単位取得の前提条件になります。

T1U034001

授業科目名：コンピュータグラフィックス	[学部・千葉工大開放科目]
科目英訳名：Computer Graphics	
担当教員：津村 徳道	
単位数：2.0 単位	開講時限等：3 年前期木曜 4 限
授業コード：T1U034001	講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2013 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] コンピュータグラフィックスの基礎から応用までを幅広く、教科書を用いて概説するとともに、情報画像工学科の学生にとって重要な事項は特に深く解説する。また、OpenGL を用いた演習を行う。

[目的・目標] 現実の世界を計算機の世界の中で再現するコンピュータグラフィックスの分野は、数学、物理など様々な科学や工学の分野を取り込んで急速に成長している。講義では、その躍動を学ぶとともに、新しいことに恐れず積極的に取り入れる姿勢を一般目標として学ぶ。また、コンピュータグラフィックスという応用を通して、基礎学問の重要性を学び、持続的に成長する人材となることを達成目標とする。

[授業計画・授業内容]

1. 講義概要, CG 最新情報,
2. デジタルカメラモデル
3. 座標変換
4. OpenGL 演習
5. OpenGL 演習
6. モデリング(1)
7. モデリング(2)
8. レンダリング(1)
9. レンダリング(2)

10. レンダリング (3)
11. コンピューショナルフォトグラフィーと画像処理
12. イメージベースレンダリング
13. アニメーション
14. CG システム, グラフィックスプロセッシングユニット (GPU)
15. 最終まとめと将来展望, 期末テスト

[教科書・参考書] 受講する場合は 2 回目より下記の教科書を用意した上で聴講すること。コンピュータグラフィックス, 今年度版です!!!, 財団法人 画像情報教育振興協会

[評価方法・基準] 授業内レポート成績, 授業外レポート成績, 演習課題評価, 授業参加評価などを総合して評価

T1U035001

授業科目名: デジタル信号処理	(学部・千葉工大開放科目)
科目英訳名: Digital Signal Processing	
担当教員: 川本 一彦	
単位数: 2.0 単位	開講時限等: 3 年前期月曜 2 限
授業コード: T1U035001	講義室: 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2013 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 携帯電話やデジタルカメラなどの普及により, センサ信号を計算機で処理するための技術は我々の身近な存在となり, 生活に欠かせないものとなっている。この身近な技術を支えるデジタル信号処理について, 基礎的事項を講述する。

[目的・目標] センサ信号を計算機で解析するための基本的な変換手法ならびにそのアルゴリズム (計算手順) を理解する。到達目標 (1) アナログ信号とデジタル信号の違いを理解し, デジタル信号処理の利点を説明できる, (2) 信号を周波数領域で表現することの意義を理解し, そのための手順を説明できる (3) デジタルフィルタの特性を解析できる (4) 簡単なデジタルフィルタを設計できる。

[授業計画・授業内容] 千葉大学 Moodle2015 に適宜補足資料 (授業中に関する演習に対する解説) 等をアップロードするので参照すること。授業でよく分からなかった点は, 教科書をもう一度振り返り, 演習課題を各自で解くこと。

1. デジタル信号処理とは
2. 信号の表現と分類
3. 線形時不変システム
4. z 変換
5. システムの伝達関数
6. システムの周波数解析
7. 中間まとめ
8. 再帰型システム
9. 再帰型システム
10. 再帰型システム
11. 離散時間信号のフーリエ解析
12. 離散時間信号のフーリエ解析
13. デジタルフィルタ
14. デジタルフィルタ
15. 総まとめ

[キーワード] 離散フーリエ変換, Z 変換, 離散時間システム, 線形時不変システム, デジタルフィルタ

[教科書・参考書] 教科書: 貴家 仁志, デジタル信号処理のエッセンス, オーム社, 2014 参考書: 教科書を補足するための補助資料を適宜配布する。なお, デジタル信号処理のテキストで, 世界的に評価が高いものは, A.V.Oppenheim 「Digital Signal Processing」 Prentice Hall (邦訳: 伊達玄 「デジタル信号処理 上下」 コロナ社) だと思います。

[評価方法・基準] 演習で 30 点, 中間試験 30 点, 期末試験 40 点, 合計 100 点で評価する。60 点以上を合格とする。

[関連科目] 線形代数学, 微分積分学, フーリエ変換と画像, 回路理論 I・II, デジタル画像処理

[履修要件] 線形代数学と微分積分学は履修していることを前提とする。

T1U036001

授業科目名: 情報知的所有権セミナー

科目英訳名: Intellectual Property Rights Seminar

担当教員: (千旦 和也)

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 3 年前期水曜 1,2 限隔週 1,3

授業コード: T1U036001, T1U036002

講義室: 工 9 号棟 107 教室

科目区分

2013 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 内容に関心のある工学部学生

[授業概要] 近年、知的財産というものが注目されている。目に見える有体物だけでなく、目に見えない知的創造物である発明や著作物などを保護しようとするのが知的財産制度である。このような知的財産は、実社会において、弁理士や企業の知的財産部に所属する者など知的財産を専門として扱う者だけでなく、企業や大学などで研究開発を行う者や、企業で新製品の開発を進めていく者などに何らかの関係を持っている。本講座においては、特許、商標、意匠などの産業財産権、著作権などの基本を弁理士としての経験や有名な事件などを紹介しながら講義する。授業は、一方的な講義だけでなく、グループディスカッションや質疑応答などを交えた全員参加型のものを行う予定である。

[目的・目標] 上述のように知的財産を専門とする者以外にも、研究者など様々な者が、実社会において知的財産と関係を持っており、知的財産に関する知識が不十分であると、取り返しのつかない事態を招く虞がある。そこで、本講座は、?知的財産を専門とする職業に興味がある方には、入門的知識を習得させ、?知的財産を専門としない研究開発などの職業を希望する方には、知的財産に関する最低限必要な基礎知識を習得させることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 以下の () 内が講義日

1. (4/15 1 限のみ) 知的財産権の概要 (1) (ガイダンス)
2. (4/22) 知的財産権の概要 (2)
3. (4/22) 特許制度 (1)
4. (5/13) 特許制度 (2)
5. (5/13) 特許制度 (3)
6. (5/20) 特許制度 (4)
7. (5/20) 特許制度 (5)
8. (6/3) 特許制度 (6)
9. (6/3) 特許制度 (7)
10. (6/17) 商標制度 (1)
11. (6/17) 商標制度 (2)
12. (7/1) 著作権制度 (1)
13. (7/1) 著作権制度 (2)
14. (7/15) 意匠制度・その他の知財保護 (1)
15. (7/15) 意匠制度・その他の知財保護 (2)

[キーワード] 知的所有権、知的財産、特許、実用新案、著作権、商標、商号、意匠、営業秘密、植物新品種、半導体回路配置、特許侵害訴訟、産官学連携

[教科書・参考書] 下記の URL から各自印刷して持参

[評価方法・基準] 出席、授業への取組態度、授業中の小テストで評価

授業科目名： インターンシップ	
科目英訳名： Internship	
担当教員： 松葉 育雄	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 3 年通期集中
授業コード： T1U037001	講義室：

科目区分

2013 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 実習

[受入人数] 原則として何人でもよい。

[授業概要] 産業界において、情報画像学科で開講している科目に関係する技術的内容について実習を行い、学習内容と現実との対応、仕事の内容や方法などの実学を体得する。

[目的・目標] 企業等の産業界で実習体験を行うことにより、実学・企業倫理などを身につけることを目標とする。本授業を履修することにより、社会の第一歩を経験することができ、卒業後の将来指針について考察することができる。

[授業計画・授業内容] 産業界において、情報画像学科で開講している科目に関係する技術的内容について 2 週間 (60 時間以上) の実習を行うことを原則とする。

[評価方法・基準] 評価方法は、本人のレポート (様式 1 の書類) と受け入れ側担当者からの報告書 (様式 2 の書類) により行う。基準は、上記の「授業計画・授業内容」に示す内容を行えば合格とする。

[履修要件] ・通常の講義に支障が無い日程の範囲で行うこと。・実施前に、上記の「評価方法・基準」を満たすかどうかを受け入れ側企業等へ確認する、もしくは担当教員へ相談すること。・受入れ企業等へ提出する書類 (様式 2 (封筒あり) と担任からの依頼文 (様式 3) が入った袋) は、実施開始までに受け入れ側企業等の担当者へ学生自身が渡すこと。

[備考] (1) この科目は履修登録はしないでください (事務が登録します)。(2) インターンシップ実施先は多くの企業等が公募しており、大学へも案内が来ているので、web や学務係、学科の掲示板で各自で見つけること。どうしても適切な企業が見つからないが実施したい場合には、担任に相談すること。

授業科目名： ソフトウェア設計論	[学部・千葉工大開放科目]
科目英訳名： Software Design	
担当教員： 大澤 範高	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 3 年前期火曜 3 限
授業コード： T1U038001	講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2013 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] オブジェクト指向ソフトウェア開発を中心として、ソフトウェア工学の基礎を学習する。

[目的・目標] ソフトウェアシステムの設計ができ、専門的知識を有する人と円滑にコミュニケーションや議論ができる能力を養う。具体的な目標は以下の通りである。(1) ソフトウェア工学の方法論を理解し、それを利用できる。(2) モデル表現法を理解し、それを使用した図を読解および作成できる。(3) オブジェクト指向パラダイムを理解し、それに基づいた基本的な設計および実装ができる。

[授業計画・授業内容] オブジェクト指向に基づいたソフトウェア開発を行うために必要となる基礎的な知識を習得できるように、下記の予定で講義を行う。概ね各回に講義の後で次回を期限とする演習を課す。演習課題を解くことによって理解を深めると共に、生じた疑問は、質問等によって解消すること。なお、講義資料は事前に、Web 上 (普遍教育センターの学習管理 Web システム「千葉大学 Moodle」) でアクセス可能にする。予習を十分行っておくことが望ましい。

1. 序論: ソフトウェア工学知識体系 - SWEBOK
2. プロセス: ライフサイクル、アジャイル開発
3. オブジェクト指向パラダイム
4. Java 言語: Generics, Annotation, ラムダ式

5. 統一モデリング言語 (UML) UML: 構造図
6. デザインパターン
7. デザインパターンの応用
8. 前半のまとめ
9. UML: 振舞図
10. 検証・テスト
11. 保守・リファクタリング
12. プロジェクト管理
13. アジャイルソフトウェア開発例
14. スクリプト言語
15. 総まとめ

[キーワード] ソフトウェア設計法, モデル化, オブジェクト指向, UML, Java 言語, デザインパターン, アジャイルソフトウェア開発

[教科書・参考書] 参考書: アラン・シャロウェイ, ジェームズ・R・トロット「デザインパターンとともに学ぶオブジェクト指向のこころ」ピアソン・エデュケーション)、エリック ガンマ, ラルフ ジョンソン, リチャード ヘルム, ジョン ブリシディース著「オブジェクト指向における再利用のためのデザインパターン」(ソフトバンククリエイティブ)、ダン パイロン, ニール ピットマン著「UML2.0 クイックリファレンス」(オライリー・ジャパン)、玉井哲雄著「ソフトウェア工学の基礎」(岩波書店)

[評価方法・基準] 中間試験、期末試験による総合試験成績 (80%) に授業内での演習やレポートなどの平常点 (20%) を加味して評価する。総合試験成績は 100 点満点換算で、60 点が本科目の目的・目標の最低限の達成に相当する内容と難易度で出題する。

[関連科目] プログラムの設計と実現 II(*p. 情報 21* T1U019001)

[履修要件] JAVA 言語に関する基礎的な知識を有すること。

T1U044001

授業科目名 : 写真創作実習	
科目英訳名 : Photo creation practice	
担当教員 : (鈴木 建男)	
単位数 : 2.0 単位	開講時限等: 3 年前期金曜 4 限
授業コード : T1U044001	講義室 : 工 5 号棟 105 教室

科目区分

2013 年入学生: 専門選択科目 F36 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 画像科学科・情報画像学科 各 15 名

[受講対象] 画像科学科、情報画像学科、情報画像工学科学生のみ

[授業概要] 画像をフィルムカメラとデジタルカメラの両方で制作しモノ考え方、切り取り方、光の概念を画像表現として考察し研究します。多大な表現力と創造性に期待します。

[目的・目標] 各自が撮影した(フィルムの場合はネガ、デジタルの場合はデータ)素材を感性という観点からどのように作品に仕上げて行くかという事を指標とすると共に全員で作品鑑賞をして各自の表現の違いを検証します。

[授業計画・授業内容] この授業は画像制作を通して感性表現とは何かを学びます。モノクロフィルム撮影実習の暗室作業から得られるアナログデータ(ネガフィルム)と現在の一般的撮影で得られるデジタル画像の表現の違いを考察し「感じる写真とは」を検証します。授業最終日に全員で作品展を開催し画像と感性を考える表現の授業です。

1. オリエンテーション(実習・課題説明及び授業進行方法)
2. プロニーフィルムによる撮影演習 自画像「2014 自己の存在・鏡の中の自分」
3. プロニー・フィルム現象 暗室作業
4. デジタル画像表現 1 「自然の色と形」-自然界に存在するフォルムと色を画像化する。
5. works appreciation (作品鑑賞)
6. デジタル画像表現 2 「紙と釘」-質感の違いを表現として画像化する。
7. works appreciation (作品鑑賞)

8. デジタル画像表現 3 「瞬間の形」－ 高速シャッターを使用し普段見る事のない水の動きを画像化する。
9. works appreciation (作品鑑賞)
10. photo-shop による作品制作 1
11. photo-shop による作品制作 2 デジタルプリント制作
12. モノクロプリント制作 (暗室作業)
13. 作品展準備
14. 作品展開催 (予定 : 図書館 1 階)
15. 授業総括

[評価方法・基準] 画像に対する姿勢と自己作品のプレゼンテーションによる評価。7月31日(金)に自己の作品のプレゼンテーションを試験とします。

[履修要件] 毎年受講希望者多数の為、授業進行上、情報画像学科・画像科学科選択の15名限定の授業です。受講希望者は4月10日(金)午後3時迄にA4、1枚程度に授業の課題について各自の画像に対する抱負を書いて提出して下さい。提出先:工学部8号棟4階 小林・青木研究室受講者発表4月15日(水)2階研究室掲示板及び4階研究室掲示板

[備考] 写真データ保存用 USB メモリーを用意する事 (2 G 以上が好ましい) 。

T1U045001

授業科目名 : 情報画像実験 III 科目英訳名 : Laboratory Work in Informatics and Imaging Systems III 担当教員 : 各教員 単位数 : 2.0 単位 授業コード : T1U045001, T1U045002, T1U045003		開講時限等: 3 年後期木曜 3,4,5 限 講義室 : 工 9 号棟 206 教室
---	--	---

科目区分

2013 年入学生: 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 実験

[受講対象] 情報画像学科で履修資格のある学生のみ

[授業概要] 少人数のチームに分かれて、ロボット製作を行う。課題ごとに競技会 (タイムレースや試合など) を行う。作成したロボットについて、戦略や工夫した点などに関するプレゼンテーションを行う。

[目的・目標] 少人数のチームにより、プロジェクト開発を学ぶことを目的とする。具体的には、チーム内の戦略や目標を相談しながら設定し、チーム内の各学生の役割分担を明確にし、お互いのコミュニケーションを取りながら課題を遂行できることを達成目標とする。さらに、プレゼンテーションの能力も養い、全学生の前で適切な発表を行うことも目標とする。

[授業計画・授業内容] 6 名程度でチームを構成して LEGO Mindstorms NXT を用いたロボット製作を行い、競技会を行う。課題は、ライントレーサのタイムトライアルと、チーム対抗のもの集めゲームからなる。

1. ガイダンス
2. 説明会・ライントレーサ製作 1
3. ライントレーサ製作 2
4. ライントレーサ大会
5. もの集め製作 1
6. プレゼンテーション 1
7. もの集め製作 2
8. もの集め製作 3
9. もの集め大会予選会
10. もの集め改良 1
11. もの集め改良 2
12. もの集め改良 3
13. もの集め大会
14. プレゼンテーション 2
15. 後片付け

[キーワード] ロボット製作, プロジェクト型実験

[教科書・参考書] 最初のガイダンスで実験テキストを配布する。適宜 Web で公開する。

[評価方法・基準] 大会の結果を基礎点とし, プレゼンテーションに対する教員および学生の評価を加える。さらに, 担当教員による日常点 (出席点を含む) を加味する。

[関連科目] 卒業研究

[履修要件] 2 年生までに, 4 セメスタまでに設置されている科目に関して, 58 単位以上を習得していること。

T1U046001

授業科目名: 視覚情報処理 科目英訳名: Visual Information Processing 担当教員: 矢口 博久 単位数: 2.0 単位 授業コード: T1U046001	開講時限等: 3 年後期火曜 2 限 講義室: 工 15 号棟 110 教室
---	---

科目区分

2013 年入学生: 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 145

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 人間の情報処理について, 主に視知覚に関わる心理物理実験と, 網膜及び大脳視覚野の各部位での情報処理過程モデルを対応づけながら, 空間特性, 時間特性, 運動視, 立体視, 色覚の諸機能について概説する。

[目的・目標] 情報画像工学に関連する視覚の基礎特性の理解, 人間の知覚特性の評価, 研究方法の理解, およびそれらを通して複雑な現象から本質を捉える能力の鍛練を目的とする。

[授業計画・授業内容] まず, 人間がどのように世界を見ているのかに興味をもってもらう。その視覚のメカニズムが如何に効率的で適応的なものであるかについて, 情報画像工学と関連させながら, 学んでいく。

1. 視覚とはなにか ? 視覚理解の本質
2. 視覚とはなにか ? 視覚理解の方法
3. 眼球の構造 ? 眼球光学系と網膜
4. 眼球の構造 ? 視力と結像
5. 光受容細胞と標本化
6. 暗順応, 明順応と光受容細胞の応答
7. 空間特性と網膜の細胞
8. 周辺視と網膜の不均一
9. 視覚系の空間周波数特性
10. 形状知覚と周波数特性
11. 大脳視覚野の空間周波数特性
12. 時間周波数特性
13. 色覚
14. 運動視
15. 立体視

[キーワード] 視覚情報処理, 網膜, 大脳視覚野

[評価方法・基準] 出席 (25%), レポート (25%) と期末試験 (25%) の成績を総合し, 合計点が 60 点以上を合格とする。

[備考] 2003 年度以前の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので, 注意すること。

授業科目名：符号理論	
科目英訳名：Coding Theory	
担当教員：須鎗 弘樹	
単位数：2.0 単位	開講時限等：3 年後期月曜 3 限
授業コード：T1U047001	講義室：工 17 号棟 113 教室

科目区分

2013 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 名

[受講対象] 科目等履修生 履修可

[授業概要] 情報理論で学んだ通信路符号化定理では、その定量的限界を与えたものの、具体的な誤り訂正符号については主張していない。つまり、通信路符号化では、その用途に応じた誤り訂正符号が考えられる。本講義では、通信路符号化を実現する代表的な誤り訂正符号について、それらの具体的な構成について講義する。

[目的・目標] 代表的な誤り訂正符号の構成を理解することを目的とする。具体的には、受講生が次の事項を関連・系統づけて説明できることを目標にする。符号化・復号化に必要な代数構造、線形符号、巡回符号、BCH符号、RS符号。観点別の目標は、次の通りである。?知識・理解：誤り訂正符号の原理について理解できる。?思考・判断：各誤り訂正符号の長所・短所が理解できる。?関心・意欲：新しい誤り訂正符号について、一定の理解できる。?態度：習った誤り訂正符号について、具体的に訂正符号を構成できる。?技能・表現：誤り訂正符号についてわかり易く他者に説明できる。

[授業計画・授業内容] 情報理論の基礎を修得した後に、通信路符号化の具体的な構成を与える符号理論について、下記の予定で講義および演習を行う。授業で用いるスライド原稿(pdf)は、授業前日に、下記の授業のホームページからダウンロード・印刷して、授業に持参することが望ましい。教科書とスライド原稿の両方を使って授業を進めるので、それらで予習を十分行っておくことが望まれる。授業中に話したことは、授業に持参したスライド原稿に適時記入していくと良いノートができるはずである。また、理解を確かめる小問を用意しており、スライド原稿に予め記載している。

1. 符号理論の歴史的背景・学問的位置づけ・通信路符号化の復習
2. 符号化と復号，誤りと距離，最尤復号，誤り制御
3. 代数構造 1：群，環，体
4. 代数構造 2：整数環，イデアル，多項式環，多項式環のイデアル
5. 代数構造 3：ガロア体の構成法と表現，共役元と最小多項式，ガロア体の算法
6. 線形符号 1
7. 線形符号 2
8. 線形符号 3
9. 巡回符号 1
10. 巡回符号 2
11. BCH符号 1
12. BCH符号 2
13. BCH符号 3
14. RS符号
15. 誤り訂正符号の総まとめ

[キーワード] 通信路符号化，誤り訂正符号，ガロア体，線形符号，巡回符号，BCH符号

[教科書・参考書] 別途，指定する。

[評価方法・基準] 原則として，出席回数 11 回以上の前提条件のもと，2 回の試験で成績を評価する。15 回の講義内で試験を実施し，それが最終的な評価点になる。

[関連科目] 情報理論 (情報画像) (p. 情報 30 T1U027001)

[履修要件] 前期の情報理論に続く講義なので，情報理論・情報数学を修得していることが望ましい。

授業科目名： データベース	
科目英訳名： Data Base	
担当教員： 梶原 康司	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 3 年後期月曜 5 限
授業コード： T1U048001	講義室： 工 2 号棟 102 教室

科目区分

2013 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)，専門選択科目 F36 (T1R:電気電子工学科)

[授業の方法]

[目的・目標] コンピュータが持つ「データ処理機能」を、「データ表現能力」と「データ操作能力」に区分してテーマを設定するとともに、各テーマについて「データの表現」から「レコードの表現」へ、そしてさらに「レコード間の表現」へと系統的に講義する。

[授業計画・授業内容] データ処理機能の発展過程，データの表現方式，レコードの表現方式，レコード間の表現方式，レコードとファイル，順次ファイル，直接ファイル，索引順次ファイル，データベースの概要，データモデル一般，データの内部表現，データの独立性，データベースシステムの利用法

[評価方法・基準] 試験とレポートで評価する

授業科目名： 生体情報システム論	
科目英訳名： Biological Information System	
担当教員： 松葉 育雄	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 3 年後期月曜 4 限
授業コード： T1U049001	講義室： 工 17 号棟 211 教室

科目区分

2013 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 生体の情報処理の様式とニューラルネットワーク

[目的・目標] 生体は情報処理を行う理想的なコンピュータである。視覚のセンサ系から始め、脳神経システムにおける情報処理の様式について理解し、さらに工学的応用として、脳の神経回路を模擬したニューラルネットワークなどについて講義する。

[授業計画・授業内容] 脳とコンピュータ，生体システムでの情報処理の基本，感覚システムとしての視覚，特に網膜，視覚野の働き，側抑制など視覚システムの情報処理方式の特徴，マッハ効果，放電系列の情報量と脳の記憶容量，中枢神経システムの神経構成，システム理論と脳理論，情報理論と神経回路網の統計，興奮性結合の回路網と抑制結合をもつ回路網，論理ニューロンと論理回路，ニューラルネットワークの情報処理の特徴，連想記憶，記憶容量の統計計算，学習機械とパーセプトロン，神経回路網を利用した最適解の探索，生体情報システム論の工学応用事例

1. 脳の概要
2. 神経細胞の機能
3. 視覚情報処理 1
4. 視覚情報処理 2
5. 記憶と記憶容量
6. 神経回路網の統計
7. 論理ニューロン
8. 連想記憶と記憶容量 1
9. 連想記憶と記憶容量 2
10. 連想記憶と記憶容量 3
11. 学習機械とパーセプトロン 1
12. 学習機械とパーセプトロン 2
13. 教師なし学習
14. ニューラルネットワークの応用 1

15. ニューラルネットワークの応用 2

[キーワード] ニューラルネットワーク, 生体システム, 視覚, 神経回路網, 連想記憶, 学習機械

[教科書・参考書] !! 重要 !! 講義資料は必ず, 以下に示すサイトから入手して, 準備しておくこと. 参考書: 松葉著, ニューラルシステムによる情報処理, 昭晃堂

[評価方法・基準] 試験, レポート, 出席によって評価

[履修要件] 確率と統計を履修していること

[備考] • 講義資料は, 受講の前に必ずダウンロードし, コピーして準備しておくこと (配布資料 1, 2)
http://www.geocities.jp/complex_lab2005/

T1U050001

授業科目名: デジタル画像処理

〔学部・千葉工大開放科目〕

科目英訳名: Digital image processing

担当教員: 堀内 隆彦

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 3 年後期水曜 4 限

授業コード: T1U050001

講義室: 工 5 号棟 204 教室

科目区分

2013 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・実習

[授業概要] 情報画像システムの設計、コンピュータビジョン、コンピュータグラフィックスに必要なデジタル技術のうち、デジタル画像処理に関する基礎的事項について、特にカラー画像の処理を中心に講述する。

[目的・目標] 本科目の学習目標は、昨今の情報処理技術において、基本的かつ有用であるデジタル画像処理の基礎理論を受講生が理解し、処理プログラムを構築できるようになることである。具体的な達成目標は以下のとおりである。(1) デジタル画像の入出力方法を理解できる。(2) 2 値画像, カラー画像, 分光画像の違いと, それらの特性を理解できる。(3) 画像空間および周波数空間における簡易な画像処理を理解し, 計算機で実現できる。(4) 3 次元画像や動画画像への考え方を展開できる。なお、試験前には習得内容を振り返り、達成目標に到達しているかを確認することが望ましい。

[授業計画・授業内容] 授業の理解を深めるために、2～3 回程度のレポートを課す。

1. 総論
2. 画像の入出力
3. 画像空間と周波数空間
4. 分光画像とカラー画像
5. デジタルハーフトニング
6. 画像符号化
7. 画質改善 (1)
8. 画質改善 (2)
9. 2 値画像処理
10. 特徴抽出
11. 3 次元画像処理
12. 動画画像処理
13. 画像認識
14. 画像処理実習
15. 全体のまとめと期末試験

[教科書・参考書] 田村秀行:「コンピュータ画像処理」, オーム社

[評価方法・基準] レポート (50%) と期末試験 (50%) によって評価する。期末試験において不正行為が発覚した場合には不可とする。

[関連科目] 本科目を学習することは、以下の科目と密接な関係にある。「視覚情報処理」「色彩と画像」「画像解析システム論」「画像と感性」「画像電子機器工学」「デジタル映像システム」「フーリエ変換と画像」「パターン認識基礎」「デジタル信号処理」「コンピュータグラフィックス」「情報理論」

[履修要件] 「視覚情報処理」「色彩と画像」を履修していることが望ましい。

授業科目名：リモートセンシング工学	〔学部・千葉工大開放科目〕
科目英訳名：Remote Sensing Technology	
担当教員：久世 宏明, Josaphat T. Sri Suman, 齋藤 尚子	
単位数：2.0 単位	開講時限等：3 年後期金曜 2 限
授業コード：T1U052001	講義室：工 5 号棟 104 教室

科目区分

2013 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 地球環境をターゲットとしたリモートセンシングによる情報抽出の技術的基礎について、環境リモートセンシング研究センター所属の教員が分担して講義する。

[目的・目標] 【一般目標】(1) 衛星観測を中心としたリモートセンシングについて知ろう (2) リモートセンシングの学際の特徴について知ろう (3) 衛星画像情報の解析について知ろう (4) マイクロ波によるリモートセンシングについて知ろう 【到達目標】(1) リモートセンシングについて科学的な言葉で説明できる (2) リモートセンシングの環境計測への応用について考察できる

[授業計画・授業内容] リモートセンシング技術の概観、リモートセンシングによって得られる環境情報、応用例、データ処理手法、リモートセンシングと地球大気、リモートセンシングの基礎をなす物理過程、地上検証、土地被覆モニタリングへの応用、マイクロ波リモートセンシングの原理など。特に予備知識は要求しませんが、地球環境、衛星による地球観測、関係する地上からの測定、衛星データ処理などに関心をもって受講してください。(* 以下の授業内容は予定であり、変更になる場合もあります)

10/ 2 久世 ガイダンス、リモートセンシングと地球環境のモニタリング

10/ 9 久世 衛星リモートセンシング手法

10/16 ヨサファット 宇宙観測・合成開口レーダの歴史

10/23 齋藤 衛星リモートセンシングと大気放射の基礎

11/ 6 齋藤 衛星による大気微量成分の観測法

11/13 久世 衛星リモートセンシングのデータ解析

11/20 久世 衛星データと地上検証

11/27 齋藤 大気環境問題とリモートセンシング (地球温暖化)

12/ 4 齋藤 大気環境問題とリモートセンシング (成層圏オゾン層・大気汚染)

12/11 本多・梶原 植生リモートセンシング

12/18 久世 地上からの大気リモートセンシング

1/ 8 ヨサファット 合成開口レーダの概要

1/22 ヨサファット 合成開口レーダの画像生成方法

1/29 ヨサファット 合成開口レーダの特性と応用

2/ 5 ヨサファット 合成開口レーダ：センサ開発・無人航空機・小型衛星

[教科書・参考書] 下記のような参考書を挙げておきます。興味や必要に応じて参照してください。・基礎からわかるリモートセンシング、日本リモートセンシング学会編、理工図書・図解リモートセンシング、日本リモートセンシング研究会編、日本測量協会・リモートセンシング解析の基礎、長谷川均著、古今書院・フォトショップによる衛星画像解析の基礎、田中他著、古今書院・リモートセンシングの基礎、Rees 著、久世他訳、森北出版

[評価方法・基準] 出席・レポート

授業科目名：オペレーティングシステム	
科目英訳名：Operating System	
担当教員：北神 正人	
単位数：2.0 単位	開講時限等：3 年後期金曜 3 限
授業コード：T1U053001	講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2013 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 名程度

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] ユーザやアプリケーションプログラムと計算機ハードウェアとのインタフェースであるオペレーティングシステムについてその概念や実装方法について解説する。

[目的・目標] オペレーティングシステムを構成する各機能について、その仕組みや実現方法を理解できること。

[授業計画・授業内容]

1. OS とは
2. 実行管理
3. 同期・通信
4. デバイス管理
5. 記憶装置管理
6. 仮想記憶
7. ファイルシステム
8. 前半のまとめ
9. ネットワーク
10. 並列分散処理
11. ユーザインタフェース
12. 保護とセキュリティ
13. 構成法と事例
14. システムの信頼性とその評価
15. 後半のまとめ

[キーワード] OS,

[教科書・参考書] 大澤範高著「オペレーティングシステム」コロナ社 ISBN:978-4-339-02707-5

[評価方法・基準] 毎回の小テストと期末試験で評価する

T1U054001

授業科目名：知識工学

科目英訳名：Knowledge Engineering

担当教員：井宮 淳

単位数：2.0 単位

授業コード：T1U054001

開講時限等：3 年後期水曜 3 限

講義室：工 9 号棟 206 教室

科目区分

2013 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法]

[目的・目標] 計算機が利用出来る知識表現法や推論手法について、基礎的な学習を行う。各手法がどのような課題の解決に向いているのかという点の理解及び身の周りに知識工学により解決しうる問題はないかという課題発見能力の訓練を本授業の目的とする。レポート提出 第 1 回課題“ 機械や計算機が知的とはどのようなことか ” 第 2 回課題“ 知識工学手法で解決したい自分の課題と解決法の具体的提案 ” 2 回。

[授業計画・授業内容] 1. 知識工学とは 2. 知識工学の応用 3. 問題解決 4. ブラインド探索 5. ヒューリスティック探索 6. 知識表現 7. ルールモデル (プロダクションシステム) 8. フレームシステム 9. 意味ネットワーク 10. 命題論理 11. 述語論理 12. 推論 13. 機械学習 14. 分散人工知能・進化的計算 15. まとめ 16. 試験

[教科書・参考書] 参考書：小林重信 “知識工学 ”人工知能シリーズ 10、昭晃堂

[評価方法・基準] レポート 20 % , 演習 20 % , 中間試験 30 % , 試験 30 %

[備考] 成績は、2 回のレポートと期末試験を等しく評価する。

授業科目名：心理物理学
 科目英訳名：Psychophysics
 担当教員：青木 直和
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1U059001

開講時限等：2 年後期水曜 3 限
 講義室：総 A4F 情報処理演習室 2

科目区分

2014 年入学生：専門選択科目 F36 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 心理物理学は刺激と感覚の関係を扱い、心理機能、脳機能を探求するための標準的方法の 1 つである。信号検出理論の発展と感覚量の尺度構成法の改良により、知覚、学習、行動といった領域で問題を解決でき、さまざまな科学・技術分野で応用される。主に画像分野における心理物理学的手法の利用と応用について解説し、関連の問題、測定実験を課す。

[目的・目標] 画像や視覚情報で扱う感性情報・生体情報の基となる人の知覚、認知、認識の機構、理論を理解する。このための心理物理学実験を計画・実施でき、実験で得る心理物理測定データを統計的に処理し、定量的な解析ができるようになる。

[授業計画・授業内容] 心理測定概念等、心理物理測定法について解説を行う。

1. 心理物理学 概要
2. 統計基礎，回帰分析
3. 検定
4. 分散分析 実験計画法
5. 心理学実験：感度の測定
6. 感覚属性，尺度心理物理学理論
7. 検出、ROC 曲線
8. 検定 2
9. 比較判断
10. ME 法
11. 心理物理学的比尺度構成法
12. 尺度構成実験（対比較法、正規化順位法）
13. SD 法 (Semantic Differential)
14. 因子分析・SD 法 実習
15. 心理物理学の応用
16. 試験（関数電卓持参のこと）

[キーワード] 感覚，計量心理学，Semantic Differential

[教科書・参考書] 参考書：計量心理学（岡本安晴著，培風館 2006）”Psychophysics”：F.A.A. Kingdom & N. Prins 著，Academic Press (2010)

[評価方法・基準] 心理物理学のデータ解析、統計解析に関する項目に関する問題と心理物理学実験課題 (50%)、および必須項目に関する期末試験 (50%) によって評価する。

[関連科目] (p. 情報?? T1T032001)，視覚情報処理 (p. 情報?? T1T038001)，多変量解析 (p. 情報 25 T1U023001)

[履修要件] なし

授業科目名：工業システム概論
 科目英訳名：Industrial System Engineering
 担当教員：(浅野 一哉)
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1U060001

開講時限等：4 年前期月曜 4 限
 講義室：工 2 号棟 101 教室

科目区分

2012 年入学生：専門選択科目 F36 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 製造業が階層的なシステムになっており, サブシステムがネットワークで結合されることによりものづくりが行われることを学習する. そのようなシステムを解析, 設計, 制御, 管理するための技術, 特にモデリングについて学習する. 理論や手法はすべて具体的な事例と合わせて説明し, それらが製造業で実際にどのように活用されるのかを学習する.

[目的・目標] ・工業システムの構造, 分類, ものづくりとの関係を理解する. ・システムを解析, 設計, 制御, 管理するための技術の概要を理解する. ・モデリングの手法, モデルの活用方法を理解する. ・製造業においてそれらの技術がどのように活用されているかを理解する.

[授業計画・授業内容] 鉄鋼業, その他の産業を例に挙げて工業システムの階層構造, サプライチェーン全体が巨大なシステムとしてものづくりにどう関るかを説明する. システムのモデリングの意義, 手法について述べ, それらが製造業においてどのように活用されるかを説明する. 生産計画・物流システム, プロセス制御システムのような代表的なシステムの事例を具体的に示す. 最近, 非常に重要になっている設備や操業の異常診断技術, そのための手法として注目されている機械学習のようなビッグデータ解析技術についても説明する.

1. 工業システムとシステム科学技術
2. ものづくりとPDCA サイクル
3. 工業システムにおけるモデルの役割
4. 静的モデルの手法と実例
5. 動的システムのモデリング
6. 動的システムの制御
7. プロセス制御の実例
8. 離散事象システムのモデリングと最適化
9. 生産計画・物流システムの実例
10. ハイブリッドシステムのモデリングと制御
11. プロセスデータの解析と異常検出
12. 品質管理システム
13. ソフトセンサとプロセスの可視化
14. 機械学習とビッグデータ活用
15. 期末試験

[キーワード] システム, モデル, 製造業, ものづくり, サプライチェーン, 生産管理システム, 生産計画システム, 物流システム, 予測, 制御, 管理, 機械学習, ビッグデータ

[教科書・参考書] 講義の中で指示する.

[評価方法・基準] 出席, レポート, 試験によって評価

[履修要件] なし

[備考] 試験とレポートによって評価

T1U061001

授業科目名: 画像技術史	
科目英訳名: Development of Imaging Technology	
担当教員: (桑山 哲郎)	
単位数: 2.0 単位	開講時限等: 4 年前期木曜 4,5 限
授業コード: T1U061001, T1U061002	講義室: 工 2 号棟 202 教室
原則として, 4, 5 コマ連続で隔週開講;	

科目区分

2012 年入学生: 専門選択科目 F36 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 制限は特に無い

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 「画像とは何か」をテーマに、いろいろな方面から理解を深める講義である。事例と実物教材を多用し、理解を深める。講義中と講義後の質問を歓迎する。

[目的・目標] デジタル画像技術は急速に発展し、多種多様の機器が新たに登場している。これらを十分理解するには、「画像とは何か」という原点に立ち返って考えることが有用である。この講義では、技術史の視点を用いて、画像工学の全体像に理解を深める。

[授業計画・授業内容] 講義内容の順序は以下である。進行状況により多少前後し、全部で 8 回の集中講義を行う。

1. (1-2) 導入 情報画像技術史を学ぶ意味 / 画像とは? / 「記録」と「通信」の統一的理解 (2) 画像における「大きさ」と「形」の問題-1:-線透視図法とその歴史
2. (3-4) 「大きさ」と「形」の問題-2: アナモルフォーシス
3. (5-6) 奥行き要素-ステレオ写真とステレオ画像, ホログラフィ, いろいろな立体画像技術
4. (7-8) 動き要素-ゾーマトロープ, プラクシノスコープ, 映画の発明, テレビの歴史
5. (9-10) 明暗の検出と再現-写真と網点印刷, 光と闇 / テレビ画面の「黒」について
6. (11-12) 色の検出と再現-色とは何か, 色彩理論の歴史
7. (13-14) カラー画像機器の歴史と特性について, カラー写真, カラー印刷, カラー撮像・表示機器
8. (15-16) まとめ 画像の魅力 / ふたたび「画像とは?」実社会で画像技術にかかわる人が知っておくと良い事柄

[教科書・参考書] プリントと教材を出席者に配布

[評価方法・基準] 各授業時間毎に、簡単なレポートを提出。出席数とレポート記入内容により評価。

[履修要件] 特になし

[備考] 2015 年度は 木曜日 4~5 時限に隔週講義を行う。開講日は、4 月 16 日, 5 月 7 日, 14 日, 28 日, 6 月 11 日, 6 月 18 日, 7 月 2 日【変更: 注意】7 月 9 日を予定している。提示資料が多いので、第 8 回の 7 月 9 日にも 2 回分の講義を行う開講日の変更の可能性があるので、掲示等を注意いただきたい。開講前に e-mail で問合せを差し支えない。

T1U062001

授業科目名: 広報媒体論 科目英訳名: Study on Mass Media 担当教員: (和田 仁) 単位数: 2.0 単位 授業コード: T1U062001	開講時限等: 4 年前期金曜 3 限 講義室: 工 9 号棟 106 教室
---	--

科目区分

2012 年入学生: 専門選択科目 F36 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可; マスメディアやインフォメーション・テクノロジー (IT) を活用した広告・広報による社会的コミュニケーションや広告ビジネスに関心があり、広告理論やメディア戦略について学びたい者

[授業概要] 広告・広報は、さまざまな商品やサービス、主張や提案などを、広く社会に販売・説得・普及させるためのコミュニケーション活動である。「広告」は「叫び屋」と呼ばれた古代バビロニアの「クチコミ」に始まり、手書きポスター、印刷メディア (チラシや新聞・雑誌)、電気通信 (電話・電報など)、放送メディア (ラジオ・テレビ)、ケータイやインターネットなど、媒体テクノロジーの変化とともに成長・発展してきた。こうしたテクノロジーと広告戦略の変遷を中心に、コンテンツや広告メッセージの事例を紹介しながら、新しい広告ビジネスモデルやメディア環境について皆さんと一緒に考え議論する。

[目的・目標] [一般目標]: 広告・広報の発達史を通じて、媒体テクノロジーの変化がどのように広告ビジネスを成長させてきたかを理解する。媒体テクノロジーに適したコンテンツ作成や広告メッセージの表現作法などについて学び、コミュニケーション効果の理論や効果測定システム、媒体戦略 (メディアミックスやクロスメディアなど) の考え方などを学ぶ。[個別目標]: 印刷から電子新聞など様々な広告メディアの変化も取り上げるが、特に最大の広告媒体である「テレビ広告」(TVCM) を中心とする、映像・動画によるコミュニケーションの分析理論や広告効果論を通じて、ケータイやネット動画、SNS や Buz Marketing など新しいメディアテクノロジーの広告ビジネスについて理解を深める。具体的には、画像・動画の広告・広報メッセージを創る・読む・評価する力 (メディアリテラシー) とビジネス化への構想力を養う。

[授業計画・授業内容] 広告・広報媒体の中でも「映像・画像」の時代を切り開いた「テレビ広告」を中心に、印刷媒体のデジタル化や、屋外広告や看板の電子化、新しい媒体テクノロジーの組合せ戦略などについて、テクノロジーの進化と社会的普及の観点と広告モデルの役割という視点で学ぶ。

1. 情報メディア産業と広告ビジネスの現状 広告費から見たメディア環境
2. 広告・広報とジャーナリズムの四千年史 媒体テクノロジーの発達にともなって
3. グーテンベルクの活版印刷（15世紀）から電子書籍元年（2010年）へ
4. メディアとしての「電話」と「ラジオ」 通信ビジネスと広告放送モデル（フリーモデル）
5. 戦後日本の放送メディアと広告市場の拡大 民放ラジオと民放テレビと地デジ化
6. テレビCM小史（1）1953～1974年 草創期から高度成長への表現傾向
7. 画像・動画の広告戦略と効果測定 視聴率調査システムとDAGMAR論
8. テレビCMの「低関与理論」と購買行動モデル 学習・記憶と行動
9. テレビCM小史（2）1975～1995年 テレビ広告が新聞広告を抜いてから
10. シングルソース概念 POSシステム（購買）と視聴率（接触）の統合化
11. テレビCM小史（3）1995～2010年 インターネット商用化以降の画像環境
12. IMC（統合マーケティング・コミュニケーション）とブランド論からのテレビ媒体論
13. OOH（Out Of Home）・ケータイ（モバイル）とデジタルサイネージの媒体論
14. インターネットとWeb 2.0 CGM（Consumer Generated Media）の媒体論
15. コンタクトポイントとクロスメディア 新しいメディア・エコシステムを考える

[キーワード] コミュニケーション, メディア, テクノロジー, 技術と社会, 広告・広報

[教科書・参考書] 特に指定しない。授業資料は毎回配布し、必要な参考書・文献をその都度紹介する。

[評価方法・基準] 期末レポート（70%）、授業内ミニッツペーパー提出（6回程度：30%）

[備考] 25年度は金曜3コマの開講予定です。

T1U064001

授業科目名：メディアアート

科目英訳名：Media Art

担当教員：(佐藤 慈)

単位数：2.0単位

開講時限等：4年前期集中

授業コード：T1U064001

講義室：工9号棟206教室

科目区分

2012年入学生：専門選択科目 F36（T1U:情報画像学科）

[授業の方法] 講義・実習

[授業概要] 映像メディアの特性について、カメラワーク、編集、カラー・グレーディングなど特に表現技法の観点から講義を行う。また、映像を活用して表現するための基本的な知識・技術を簡単な実習を通して学習する。

[目的・目標] 映像コンテンツを表現的な観点から分析し、制作者の意図を読み取る力を身につけることを目的としている。また、受講者が映像を自らの表現手段として活用するきっかけとなることを期待している。

[授業計画・授業内容] 授業は講義と実習で構成される。講義では、カメラワーク（カメラアングル、フレームサイズ、カメラポジション）、POVショット、視線の誘導、照明、編集（コンティニューイティ・エディティング、モンタージュ等）、映像の質感（カラー・グレーディング）、映像合成等について取り上げる。実習では、課題に基づいてパソコンを利用した簡単な映像制作を行う。

[キーワード] 映像表現, 映像制作

[教科書・参考書] 特になし

[評価方法・基準] 講義内容の理解度を確認するための小テスト、実習課題、出席により総合的に評価する。

[備考] 開講日：8月31日（月）～9月4日（金）3～5時限

授業科目名： デジタル映像システム	
科目英訳名： Digital Imaging System	
担当教員： (黒沢 俊晴)	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 4 年後期集中
授業コード： T1U065001	講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2012 年入学生： 専門選択科目 F36 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] デジタル技術の登場による映像システムの進化と世の中の変化を概観し、最近のデジタル映像システムの構成や特徴的な画像・映像処理技術およびその先端技術と最近の話題を含め幅広く紹介する。

[目的・目標] 目覚しく発展・進化するデジタル映像システムの基礎から応用そして最先端技術まで広範囲な技術を双方向形式の授業で理解を深めるとともに工学的な考え方や調査能力を付けさせることを目的とする

[授業計画・授業内容] デジタル技術はさまざまな要素技術の進化・発展とともに映像システムもアナログからデジタルへと発展を遂げています。私達の一番身近な映像装置であるテレビを見ますと、地上波デジタル放送が 2006 年に開始されて以来、より美しい映像表現、テレビとパソコンとの融合やネットワーク化等が進みつつあります。映像素材はデジタルで撮像され、デジタル編集機によって容易に創作が可能になり、そして効率よく圧縮伝送され、いつでもどこでも新鮮な映像を手元で見ることができるようになってきました。本講座はこのように進歩発展の著しいデジタル映像システムについて、身近な映像装置であるテレビに視点を置き、アナログ技術からデジタル技術による映像装置の進化と世の中の変化を時系列に概観しつつ、デジタル映像システムの構成、デジタル映像フォーマット、デジタル映像符号化技術、入出力映像デバイスの基礎とその特徴的デジタル映像処理技術とその先端技術、著作権保護等基礎から応用そして最先端技術まで広範囲な内容を講義する。また「有機 EL は次世代 TV の本命か」「第三の波が来た 3 DTV はお茶の間に入るのか」「世界標準規格化戦争、次は?」「TV はどこまで進化するか」等将来展望についても述べる。

[キーワード] デジタル映像機器、デジタル画像処理、映像符号化、映像評価技術、映像デバイス、テレビディスプレイ、標準規格

[評価方法・基準] 出席状況，参加状況，レポート点数を総合して判断

[備考] 黒沢俊晴 (非常勤，元松下電器産業， 連絡担当：津村徳道) 2015 年度 後期土曜日集中後期 工 2 号棟 103 教室 10 月 24 日 (土)，11 月 7 日 (土)、11 月 14 日 (土)、12 月 5 日 (土) 10 時～16 時半まで)

授業科目名： 卒業研究	
科目英訳名： Graduate Research	
担当教員： 各教員	
単位数： 8.0 単位	開講時限等： 4 年通期集中
授業コード： T1U066001	講義室：

科目区分

2012 年入学生： 専門必修 F10 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法]

[目的・目標] 情報画像学科各コースにおける最も重要な科目と位置付けられ、実践的な力量，研究的な力量の両面を総合的に向上させることを目指す。

[授業計画・授業内容] 各学生は研究室に所属し、ある一つのテーマについて研究を行う。研究においては、各教員から個別に指導を受ける。最終的に卒業研究発表会を行い、個別に評価が行われる。

[評価方法・基準] 研究実施内容，論文，発表により評価する。

[履修要件] 入学年次で異なるので、履修課程で確認すること。

T1U068001

授業科目名：画像電子機器工学
 科目英訳名：Image Electronics
 担当教員：(仲谷 文雄)
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1U068001

開講時限等：4 年後期集中
 講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分

2012 年入学生：専門選択科目 F36 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] カラーキャナ・デジタルカメラ等の入力装置、ディスプレイ、プリンタ等のハードコピーについて、カラー画像に必要なとされる、主に測色の色再現の方法につき、線形理論を中心に演習を交え講義し、更にカラーマネジメントへの応用を解説する。

[目的・目標] 画像情報を扱う機器のデジタル化が進み、スキャナー、カメラ、ビデオ、プリンタなどのデジタルカラー機器が急速に普及している。入出力機器のためのカラーマネジメントの実践に必要な色彩学・色再現に関する基礎知識と考え方を身につける。それにより実際の問題に応用できることを目標とする。

[授業計画・授業内容] 以下の内容について3回の集中講義で解説する。1. 色再現の基礎・画像色再現の目的・色覚・Grassmann の法則・等色関数とルーター条件・標準観測者と基準光源・物体色・均等色空間・混色原理・Lambert Beer/Neugebauer 2. カラー画像複製原理・スキャナーの色再現・ディスプレイの色再現・ハードコピーの色再現・画像の色補正/色修正・RGB CMYK変換 3. カラーマネジメントと標準・色の見えモデル・CIECAM02・色差式の発展・CIEDE2000・標準色空間・sRGB, opRGB, PRMG, etc.・色域マッピングアルゴリズム・GMA・分光画像再現・Multispectral Imaging

[キーワード] color reproduction, color management, color imaging

[教科書・参考書] 田島譲二著、カラー画像複製論 カラーマネジメントの基礎、丸善。資料コピーを配布予定。

[評価方法・基準] 出席 (40%), 宿題等課題 (10%), レポート (50%)

[備考] 集中講義：2015 年度の開講日は以下の通り。11月28日(土), 12月12日(土), 12月19日(土) いずれも2~6限
 場所：工 2 号棟 202 教室

T1U069001

授業科目名：情報画像産業汎論
 科目英訳名：Introduction to Information and Imaging Industry
 担当教員：松葉 育雄, 関屋 大雄
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1U069001

開講時限等：3 年後期金曜 5 限
 講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2013 年入学生：専門選択必修 F20 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 人

[授業概要] 情報画像工学分野において第一線で活躍される研究者・技術者から講義をいただく。講師は毎週交代し、さまざまな情報画像分野、企業からの最新の知識を教授いただく。(講師・内容は決まり次第掲示する。)

[目的・目標] 情報画像産業界における最新の技術動向を広く理解することを目的とする。情報画像関連分野の第一人者の講義を受けることにより、これまでの情報画像に関する知識を深めるとともに定着することができる。

[授業計画・授業内容] 情報画像工学に関して産業界で活躍している研究者・技術者が講義形態で毎週交代で最先端技術などを紹介する。講義予定は随時更新されるので注意すること。講演者が決定し次第本シラバスにて連絡する。

1. 10/2 ガイダンス (担当：担任)
2. 10/9 今村 伊知郎 (ソリッドレイ研究所)「バーチャルリアリティ技術の実用事例の紹介-ディスプレイ活用例-」(担当：眞鍋佳嗣)
3. 10/16 安田 庄司 (富士フイルム)「インクジェット技術の現状と未来予想図」(担当：久下謙一)
4. 10/23 西山 智 (KDDI)「通信会社のビッグデータ」(担当：大澤範高)
5. 11/6 鈴木建男 (スタジオブリッツ)「画像は何を伝えるのか」(担当：青木直和)

6. 11/13 宍倉 正視 (DIC)「色材メーカーの計算科学 - 色彩への活用事例 - (仮)」(担当: 溝上陽子)
7. 11/20 青合利明 (富士フイルム)「プリンテッドエレクトロニクスとその応用 - 印刷技術による新たなイノベーション - 」(担当: 高原 茂)
8. 11/27 松尾綾子 (東芝)「超高速/高効率を実現する次世代無線 LAN への取り組み」(担当: 関屋大雄)
9. 12/4 多田達也 (キヤノン)「応用されてこそ物理学～大学で何を学んだのか、学べば良かったのか～」(担当: 星野勝義)
10. 12/11 下元正義 (みずほ情報総研)「最近のモーションセンサーの原理と応用」(担当: 堀内靖雄)
11. 12/18「未定」(担当: 尾松孝茂)
12. 1/8 都外川八恵 (COCOLOR 代表)「色がナンボのもんじゃい!? 色はコンナもんじゃい!」～色ができる、色でできる、こんな仕事～(担当: 堀内隆彦)
13. 1/22 山本真也 (富士ゼロックス)「電子写真に用いられる機能材料技術」(担当: 小林範久)
14. 1/29 峯澤 彰 (三菱電機)「最新映像符号化標準 HEVC/H.265 の概要と標準化動向」(担当: 難波一輝)
15. 2/5 宇野憲治 (シード)「眼・その視力矯正の科学」(担当: 椎名達雄)

[キーワード] 情報工学、画像工学、産業界

[評価方法・基準] 毎週の講義の最後の 10 分を利用して、レポートを作成・提出する。出席点とレポート点により評価する。

[備考] この科目の受講予定者は、掲示およびメールによる連絡に注意して下さい。(それぞれの学科で実施します。)

T1U070001

授業科目名： 国際実習 科目英訳名： International Research Program 担当教員： 各教員 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1U070001	開講時限等： 3,4 年通期集中 講義室：
--	--------------------------

科目区分

2013 年入学生： 専門選択科目 F36 (T1U:情報画像学科)
 2012 年入学生： 専門選択科目 F36 (T1U:情報画像学科)

[授業の方法] 実習

[授業概要] 学科が用意する海外でのワークショップ、短期留学などへの参加や海外での情報画像に関連する国際会議、大学や研究所など海外研究機関における共同実習活動などにおける実習などの国際活動を認定する科目である。

[目的・目標] 国際会議、大学や研究所など海外研究機関における共同実習活動やワークショップ、短期留学など、海外での情報画像に関連する実習を通して視野を広め、国際的な活動を進める能力を養うことを目的とする。

[授業計画・授業内容] 国際会議、大学や研究所など海外研究機関における共同実習活動やワークショップ、短期留学などの準備や海外での口頭発表、実習作業、さらに帰国してからの報告書作成などの活動を評価対象とした国際活動を認定する科目である。

[評価方法・基準] 海外において行う、国際会議での発表や共同研究、学科が協定校と行う国際ワークショップ、短期派遣などの教育研究活動への参加に対して単位を認定する。総実習時間は、海外実習の準備、帰国後の報告の時間を含めて、60 時間以上とする。現地での実習時間は 40 時間以上とする。これには、同年度の複数回の渡航による実習時間を積算しても構わない。

[備考] 国際実習履修希望者は、履修登録をしないこと。実習を実施し、評価基準に達した者については、担当教員の手続きにより後日、履修登録が行われる。なお、国際実習は、登録単位数が上限に達していても履修可能である(その単位は登録単位数制限にカウントされない)。

T1Y016001

授業科目名： 造形演習 科目英訳名： Design Aesthetics(Lab.) 担当教員： 植田 憲 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1Y016001	開講時限等： 1,2 年前期火曜 5 限 講義室： 工 2 号棟 201 教室
--	--

科目区分

2015 年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KE:デザイン学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1E3:都市環境システム学科 (社会人枠), T1KI:情報画像学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

2014 年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KC:建築学科 (先進科学), T1KE:デザイン学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1E3:都市環境システム学科 (社会人枠), T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KF:ナノサイエンス学科 (先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学 = ものづくり」に対する関心を鼓舞し、学生のひとりひとりが有する造形の資質を覚醒する。

[目的・目標] 本演習の具体的な目的は、以下のようである。(1)「学び取る」姿勢を培う。(2)多面的な観察能力を養う。(3)多様な解の存在を認識する。(4)プレゼンテーション能力を涵養する。「造形演習」の4つの課題のひとつひとつには、限られた時間のなかで精一杯にチャレンジし、満足するまで成し遂げることが求められている。頭脳と手とを連動させ、「手を動かし、汗をかき、想いをめぐらし、創る」まさに「手汗想創」を体感する。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け (於: 教育学部 2101 教室「視聴覚教室」) 備考参照のこと
2. 第1課題:「鉛筆による精密描写」
3. 第1課題の演習
4. 第1課題の講評
5. 第2課題:「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第2課題の演習
7. 第2課題の講評
8. 中間発表会
9. 第3課題:「卓上ランプシェードの制作」
10. 第3課題の演習
11. 第3課題の講評
12. 第4課題:「飛行体の造形」
13. 第4課題の演習
14. 第4課題の講評
15. 展示会、まとめ、全体講評

[キーワード] 観察・思索, デザイン, 手汗想創, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

T1Y016002

授業科目名: 造形演習
 科目英訳名: Design Aesthetics(Lab.)
 担当教員: 田内 隆利
 単位数: 2.0 単位
 授業コード: T1Y016002

開講時限等: 1,2 年前期火曜 5 限
 講義室: 創造工学センター

科目区分

2014 年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KC:建築学科(先進科学), T1KE:デザイン学科(先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1E3:都市環境システム学科(社会人枠), T1K4:メディカルシステム工学科(先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KF:ナノサイエンス学科(先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

2015 年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KE:デザイン学科(先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1E3:都市環境システム学科(社会人枠), T1KI:情報画像学科(先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け(於:教育学部 2101 教室「視聴覚教室」) 備考参照のこと
2. 第 1 課題:「鉛筆による物体の描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の演習・講評
5. 第 2 課題:「三面図に基づいた立体物の描写」
6. 第 2 課題の演習・講評
7. 第 3 課題:「輪ゴム動力車の制作」
8. 第 3 課題の演習: 調査結果に基づく制作物のプレゼンテーション
9. 第 3 課題の演習: 制作
10. 第 3 課題の発表
11. 第 4 課題:「紙サンダルの制作」
12. 第 4 課題の演習: 調査結果に基づく制作物のプレゼンテーション
13. 第 4 課題の演習: 制作
14. 第 4 課題の発表
15. 展示会及び講評

[評価方法・基準] 出席状況、制作物やプレゼンテーションのクオリティを総合的にみて評価する

[備考] 創造工学センターはサンダルやヒールの高い靴厳禁。

T1Y016003

授業科目名: 造形演習

科目英訳名: Design Aesthetics(Lab.)

担当教員: 林 孝一, 下村 義弘

単位数: 2.0 単位

授業コード: T1Y016003

開講時限等: 1,2 年前期火曜 5 限

講義室: 工 2-アトリエ(2-601)

科目区分

2014 年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KC:建築学科(先進科学), T1KE:デザイン学科(先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1E3:都市環境システム学科(社会人枠), T1K4:メディカルシステム工学科(先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KF:ナノサイエンス学科(先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

2015年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KE:デザイン学科(先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1E3:都市環境システム学科(社会人枠), T1KI:情報画像学科(先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け(於:教育学部 2101 教室「視聴覚教室」) 備考参照のこと

[評価方法・基準]

T1Y016004

授業科目名: 造形演習

科目英訳名: Design Aesthetics(Lab.)

担当教員: 柳澤 要, 岡田 哲史, 鈴木 弘樹, 中山 茂樹

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 1,2 年前期火曜 5 限

授業コード: T1Y016004

講義室: 工 15 号棟 110 教室

科目区分

2015年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KE:デザイン学科(先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1E3:都市環境システム学科(社会人枠), T1KI:情報画像学科(先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

2014年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KC:建築学科(先進科学), T1KE:デザイン学科(先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1E3:都市環境システム学科(社会人枠), T1K4:メディカルシステム工学科(先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KF:ナノサイエンス学科(先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け(於:教育学部 2101 教室「視聴覚教室」) 備考参照のこと

[評価方法・基準]

T1Y016005

授業科目名: 造形演習

科目英訳名: Design Aesthetics(Lab.)

担当教員: UEDA EDILSON SHINDI

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 1,2 年前期火曜 5 限

授業コード: T1Y016005

講義室: 工 2 号棟 102 教室

科目区分

2014 年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KC:建築学科 (先進科学), T1KE:デザイン学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1E3:都市環境システム学科 (社会人枠), T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KF:ナノサイエンス学科 (先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

2015 年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KE:デザイン学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1E3:都市環境システム学科 (社会人枠), T1KI:情報画像学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 60

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学 = ものづくり」に対する関心を鼓舞し、学生のひとりひとりが有する造形の資質を覚醒する。

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け (於：教育学部 2101 教室「視聴覚教室」) 備考参照のこと
2. 第 1 課題：「鉛筆による精密描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の講評
5. 第 2 課題：「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第 2 課題の演習
7. 第 2 課題の講評
8. 中間発表会
9. 第 3 課題：「水」「火」「土」「風」のテーマから一つを選び、自由に形を創ろう
10. 第 3 課題の演習
11. 第 3 課題の講評
12. 第 4 課題：「Biophotovoltaics」
13. 第 4 課題の演習
14. 第 4 課題の講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索, デザイン, 手汗想創, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。出席：40% 作品・プレゼンテーション：60%

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

授業科目名：情報技術と社会

〔学部開放科目〕

科目英訳名：Information Technology and Society

担当教員：全 へい東, 井宮 淳, 多田 充

単位数：2.0 単位

開講時限等：後期水曜 2 限

授業コード：T1Z053001

講義室：工 17 号棟 211 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 情報通信技術 (IT) は人類史上に前例を見ないほど急速な発展をとげた技術分野である。この授業では情報通信技術と関連の深い技術を取り上げ、その発展の歴史を通じ、現代社会とのかかわりについて考察を深める。

[目的・目標] 情報通信技術 (IT) に深く関わるコンピュータ、暗号・認証、インターネットの 3 つの技術の歴史を通じ情報技術と現代社会との関連に対する知識を深める。

[授業計画・授業内容] 第 1 回は授業全体の概要を説明する。また授業の進め方 (課題提出, 成績評価等) について、重要な事項を説明するので履修する者は必ず出席すること。第 1 回から第 15 回までの 15 回の授業を、3 名の担当教員が 5 回ずつ分担して行う。下の各回の授業内容は、【主題】(担当教員名) 授業内容の順に記した。

1. 【授業概要】授業の進め方など【暗号・認証の歴史】(多田) 共通鍵暗号方式、公開鍵暗号系
2. 【計算の難しさ】(多田) 計算可能性, 計算量, 現実的な計算可能性, 乗算と素因数分解
3. 【一方向性関数と公開鍵暗号系】(多田) 多項式時間計算可能性, 多項式時間帰着, 一方向性関数
4. 【公開鍵暗号系の安全性】(多田) 攻撃モデル, 証明できる安全性
5. 【公開鍵暗号系関連技術】(多田) 公開鍵証明書, PKI, SSL
6. 【電気通信の歴史】(全) 電気通信の夜明け, 無線通信, 電話の発明
7. 【コンピュータの歴史】(全) コンピューター時代の幕開け, メインフレーム, バッチ処理と対話処理
8. 【コンピュータネットワーク (1)】(全) 回線交換とパケット交換, スプートニクショック, 「端末問題」, ARPANET, インターネットの誕生
9. 【コンピュータネットワーク (2)】(全) ARPANET から NSFNET へ, "Let there be a protocol" (The Internet Genesis), WWW, インターネットの商用解放, ブラウザ戦争
10. 【インターネットと現代社会】(全) インターネット時代の法と倫理, 情報セキュリティ, プライバシーと個人情報保護
11. 【通信と交通による情報伝達の歴史】(井宮) 情報通信手段の歴史を概観し交通システムと情報伝達手段との歴史的関係
12. 【情報科学の科学、工学への影響】(井宮) 計算構成論が他の科学技術へ及ぼした影響として機械工学への影響、映画産業への応用、医学への応用について
13. 【計算器と計算機の歴史 1】(井宮) 数の表現法と計算技法の歴史
14. 【計算器と計算機の歴史 2】(井宮) 計算の機械による実現の手法としてのアルゴリズム構成法, プログラムへの変換法
15. 【演習】(井宮) 「計算器の計算機の歴史 1」「同 2」の授業内容に関する演習【まとめ】授業評価アンケート, 授業まとめ

[キーワード] 情報通信技術 (IT), 数・計算 (機) の歴史, 暗号・認証の歴史, インターネットの歴史, 著作権と IT, 情報セキュリティ・暗号

[教科書・参考書] 授業時間に指定する

[評価方法・基準] 課題提出 (3 回) による

[関連科目] 情報関連科目 (情報処理, 計算機の基礎, プログラミング, 情報理論, ソフトウェア工学, ネットワーク構成論, 情報通信システム, 情報システム構成論, など)

[備考] 本科目は「技術史」の読み替え科目である。都市環境システム学科 (A、B コース) デザイン工学科建築系、メディカルシステム工学科、情報画像工学科及び共生応用化学科 (物質工学科) の学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので注意すること。デザイン工学科意匠系は、専門科目の専門選択 (他学科の履修と同様の扱い) となる。

授業科目名：工業技術概論	
科目英訳名：Introduction to Industrial Technologies	
担当教員：魯云	
単位数：2.0 単位	開講時限等：前期月曜 5 限
授業コード：T1Z054001	講義室：工 17 号棟 111 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可

[授業概要] まず、日本の工業技術を中心に世界の工業技術の発展、また工業技術による生活、環境、エネルギーなどの変化から工業技術の歴史、現状および将来について解説する。また、工業技術者として必要な考え方、資料調査、技術論文の書き方、研究発表の仕方などについて講義するとともに、理工系学生として勉強の仕方、レポートの書き方などを教える

[目的・目標] 理工系外国留学生として工業技術の発展、また工業技術による生活、環境、エネルギーなどの変化について理解を深めるとともに、工業技術者として必要な基礎力（考え方、資料調査、技術論文の書き方、研究発表の仕方など）、また理工系学生として勉強の仕方、レポートの書き方などを教えることを目的としている。同時に外国人留学生が日本の工業技術について理解を深め、将来、母国の産業や工業技術の発展に尽くしたり日本の企業で働く場合に役立てるようにする。

[授業計画・授業内容] 講義は二部に分けて行う。第 1 部 工業技術の歴史、現状および将来（第 1 回～第 9 回）第 2 部 研究開発者への道理解を深めるため、講義資料は Web で配布してプロジェクターによって講義を行う。レポートと課題発表によって達成度を評価する。（第 10 回～第 15 回）

1. オリエンテーション及び本科目の講義内容など
2. 世界工業技術のあゆみ
3. 日本工業技術のあゆみ
4. ユニークな工業技術
5. 工業技術と生活
6. 工業技術と環境・エネルギー
7. 21 世紀の工業技術
8. レポートの書き方
9. 課題発表-1
10. 研究開発の基本的考え方-1
11. 研究開発の基本的考え方-2
12. 資料調査について
13. 技術論文の書き方
14. 研究発表について
15. 課題発表-2
16. 課題発表-3

[教科書・参考書] 教科書は、特に指定しない。授業中に資料（プリント）を Web で配布する。参考書は、講義中に随時紹介する。授業資料（プリント）の配布：<http://apei.tu.chiba-u.jp/Luyun-HP.html>（Lecture 欄から）

[評価方法・基準] 成績は、出席状況（30%）と演習やレポート結果（30%）及び研究発表の結果（40%）を総合評価し、これらの合計点（100 点満点）が 60 点以上の者に対して所定の単位を与える。

[履修要件] 特になし

[備考] この科目は外国人留学生向けの科目で、外国人留学生の科目区分は専門選択科目（F30 又は F36）となるが、日本人学生が履修した場合は余剰単位（Z99）となり卒業要件単位とならない。

授業科目名： 居住のデザインと生活技術	
科目英訳名： Dwelling Design and Living Technology	
担当教員： 魯 云	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 後期金曜 4 限
授業コード： T1Z055001	講義室： 工 17 号棟 213 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 40 人程度まで

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 授業は丸山 純(グランドフェロー)が担当する。授業は講義に適宜ゼミ(学生による母国の生活についての紹介と意見交換)を交えて構成される。

[目的・目標] 人が生活をするということは、生きるためのさまざまな工夫を重ね、身の回りから都市や地域のスケールに至るいろいろなデザインをすることに他ならない。環境を形成して行く職能をめざす外国人留学生には、まず、そのような居住のためのデザインや生活技術に注目し、それがどのように展開されてきたか、そして現在、どのように展開されつつあるかを読み取る能力が求められる。

[授業計画・授業内容] 居住のためのデザインや生活技術について、日本の事例だけでなく、留学生の母国の事例との比較をゼミ形式で行い、理解を深めたい。期間中には、学外見学も予定している。

- 10月3日 オリエンテーション：住むとはどういうことか？そのために人はどのようなデザインをし、技術を開発してきたか？
- 10月10日 日本には、現在どのような住まいがあるか？そこではどのような生活をしているか？ 農村と都市の現代の住宅
- 10月17日 日本の街には、どのような住まいがあったか？そこではどのような生活をしてきたか？農村・漁村の歴史的な住まい
- 10月19日(日)学外見学：千葉県立野外博物館「房総の村」と成田山新勝寺の見学(西千葉キャンパス発・着 貸し切りバスツアー)
- 10月24日 日本の都市には、どのような住まいがあったか？そこではどのような生活をしてきたか？都市の歴史的な住まい。
- 11月7日 人は「食」(しょく)とその空間をどのようにデザインしてきたか？ 台所、家族の空間、
- 11月14日 人は「付き合い」とその空間をどのようにデザインしてきたか？ 座敷と床の間
- 11月21日 人は「楽しみ」の空間をどのようにデザインしてきたか？ 演劇の空間と使い方 能と歌舞伎の空間
- 11月28日 人は「楽しみ」の空間をどのようにデザインしてきたか？ ディズニーランドの空間とデザイン
- 12月5日 人は「季節」や「自然」とどのように向き合い、どのように住まいをデザインしてきたか？ 茶室、茶室と数寄屋
- 12月12日 人は「季節」や「自然」とどのように向き合い、どのように環境をデザインしてきたか？ 茶庭、庭園、離宮のランドスケープ
- 12月19日 人は「信仰」をどのように確認し、すまいと地域をどのようにデザインしてきたか？ 住まいの中の「信仰」、年中行事とその空間(盆と正月、ほか)
- 1月9日 人は「信仰」をどのように確認し、すまいと地域をどのようにデザインしてきたか？ 神社と寺のデザインと技術
- 1月23日 人は「信仰」をどのように確認し、すまいと地域をどのようにデザインしてきたか？ 五重塔のデザインと技術
- 1月30日 まとめと意見交換

[キーワード] すまい, デザイン, 生活技術, 食事, つきあい, 信仰

[教科書・参考書] 教科書はとくに指定しない。参考書は、授業の進行にしたがい、適宜紹介する。

[評価方法・基準] 出席票を兼ねた小アンケート、ゼミでのレポート発表、終了レポート

[履修要件] 特になし

[備考] この科目は外国人留学生向けの科目で、外国人留学生の科目区分は専門選択科目(F30又はF36)となるが、日本人学生が履修した場合は余剰単位(Z99)となり卒業要件単位とはならない。